

2021-2022 ガバナー月信

GOVERNOR'S Monthly Letter

2022
July

Final



江戸時代に日本とロシアの架け橋となった海商 高田屋嘉兵衛 (1769~1827)



奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

国際ロータリー第2510地区 2021-2022年度 ガバナー 大日向 豊吉

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512

E-mail:rid2510@pxva.ne.jp <http://rid2510.org>

2021-2022年度 国際ロータリーのテーマ

「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」



国際ロータリー第2510地区 2021-2022年度地区目標

「世界に奉仕を 地域には感謝を」
「不忘感謝先人偉業」

- ① RI会長テーマの理解と促進
- ② リーダー育成の観点からRLIへの参加を促す
- ③ ロータリー情報の提供、広報、クラブ目標の設定などあらゆる手続きにおいてインターネットの活用を推進する
- ④ ロータリー財団、ポリオ根絶への理解を求め会員の積極的な理解を求める
- ⑤ ロータリー米山記念奨学会の活動への理解と協力を求める
- ⑥ 会員増強、Each One, Bring Oneの推進と「ロータリー奉仕デー」の実施
- ⑦ クラブにおける戦略計画の立案(未来ビジョンの策定)と目標の設定を推奨する

CONTENTS

●生きる何のために	1	●ガバナー公式訪問報告	9
●財団学友会総会およびグローバル・地区補助金奨学生壮行会	2	●2021-2022年度 ガバナー補佐退任挨拶	10
●ガバナー補佐・地区委員会委員長引継ぎ会議を終えて	3	●2021-2022年度 地区委員長退任挨拶	14
●第19回 RYLAセミナー報告	4	●新会員のご紹介/訃報	27
●年次大会報告	6	●ロータリー財団寄付/米山記念奨学金寄付	28
●第49回ローターアクト地区大会開催報告	7	●第1地域RRFC便り	29
●ウクライナ支援災害救援基金について	8	●会員数・例会数	35



国際ロータリー第2510地区
2021-2022年度ガバナー

生きる 何のために

大日向 豊吉
(函館五稜郭RC)

清々しい風の吹き抜ける盛夏の候。

ロータリアン皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

船出してからはや一年、多くの皆様のご協力を賜り無事大役を果たし、またロータリアンの一人として函館五稜郭ロータリークラブへ帰港することが出来ました。

思い起こすと、私のような生意気なわんぱく坊主が、半強制的にロータリークラブに入会させて頂き、素晴らしい諸先輩の御指導を賜り、『お蔭様』にて人間的に大きく成長させて頂きました。

ロータリーは人間形成道場であると言われるが、自分自身は今、まさに、一回りも二回りも大きくなったことを実感しております。

ガバナー年度のチームづくりは、能戸彰会員を地区代表幹事に選出、以降、代表幹事を中心に編成され、地区大会実行委員長には光銭裕二会員を選出、ガバナーを支えるクラブとして一丸となり取り組み協力をして頂きました。

第2510地区におきましては12名のガバナー補佐が受け持ちクラブの把握に努めて頂き、各種委員会はコロナ禍においてもZoomによる会議を積極的に取り入れ、円滑に運営をして頂きました。

第2510地区チームは、ガバナー事務所との連携も良く、コロナ禍は【何処吹く風】の如く、至らないガバナーを皆様のご協力により支えて頂きました。心から有難く、改めて皆様に感謝と御礼を申し上げます。

有難うございました。

ご存じのようにロータリーの年度は6月末であります。にも拘らず、同期ガバナーから6月16日。

ロータリー財団を通じて、ウクライナへ消防車(50,000USD)を寄贈して欲しいとの話がありました。

誰が考えても年度内に実施することは、不可能なことです。

そこで「豊吉」は知恵を絞りました。

【財団に精通した人】は誰！

地区財団委員会副委員長、ガバナーノミニ・デジグネートの出村さんしかいない。

早速、ガバナー事務所の寺島さんに連絡を取り、出村GNDへ頼み込んで頂きました。

出村さんも快くお引き受け下さいました。

しかし、財団は1地区25,000USDが限度です。第2500地区に即、協力を依頼し、理解を頂きました。出村GNDは同時に「災害支援救助補助金申請書」

提出の作業に取り掛かり、結果、6月24日2地区合同による申請をロータリー財団へ提出致しました。誠に信じ難い神業的行動であります。

正直言って、出村GNDにはロータリー財団への問い合わせ、第2500地区への書類提出に係わる説明等々、相当精力的に行動して頂きましたことは事実であります。

ただただ感謝あるのみ、頭の下がる思いで一杯であります。

なお、同期ガバナーに申請書を提出した旨、連絡を致したところ、驚いた様子で、今回の件については6月30日のガバナー会において報告申し上げたいと話しておりました。

一期一会。

私たちは何時どこで、どのような人と知り合いになるのでしょうか？

また、何が出来るのでしょうか？

よく【ロータリーは何する団体】と聞かれることが多いと思います。

多くの人は「慈善事業をするお金持ちが集う奉仕団体」とであると、勘違いしている方々が多いように思います。

ロータリーが他の奉仕団体と根本的に異なるところは何処にあるのでしょうか？

ご案内のとおりロータリーは高度な哲学や宗教から出発したものではありません。

人間が本来生まれながらにして心の奥に持っている目に見えない精神。

他人に役立ちたいという心を発掘し、育てていくこと。

これがロータリーの生命力であり原点であると思います。

つまり、ロータリーは奉仕する(奉仕の実践方法を理解する)人を育てる団体であると思います。

そして、その心(理解力)の高められた人たちが、世の為人の為に何か奉仕(サービス)をした結果が、世界理解と平和に貢献していくことになるのではないのでしょうか？

ウィリアム・ロビンズ1974-75年度RI会長は「ロータリーの第一の仕事は人をつくること」と述べられたそうです。

ロシアによるウクライナ侵略を目の当たりにしている現在、私たちはこの世に生きている。

何のために？

この世に生まれてきた価値。

『生きる・何のために』自問自答してみる絶好の機会ではないでしょうか？

私は、当クラブの若者から相談を受け、地域活性化に向けて、これから函館商工会議所に向かう予定であります。

最後の最後まで息を抜く暇はないようです。

夏至も過ぎ、北海道もいよいよ盛夏を迎えます。

皆様におかれましては呉々もご自愛のほど祈念申し上げます。

改めて、この一年間大変お世話になりました。

心から感謝を申し上げます。

有難うございました。

財団学友会総会および グローバル・地区補助金奨学生壮行会

地区財団奨学金・平和フェロー委員会 委員長 **松原 重俊** (砂川 RC)

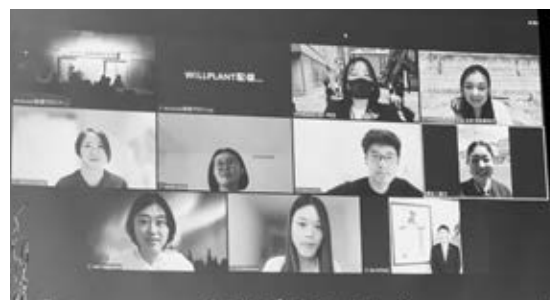


2022年6月3日、ロイトン札幌にて「財団学友会総会およびグローバル・地区補助金奨学生壮行会」が33名の出席を頂き開催されました。2018年6月に合同開催されてから新型コロナウイルス感染症の影響で個別に開催されていましたが、今年度は、財団学友会、学友委員会と財団奨学金・平和フェロー委員会と共同にて同日開催となりました。

18時より財団学友会田村理幹事長の司会のもと「財団学友会総会」が開催されました。鈴木洋史財団学友会会長と大日向豊吉ガバナーのご挨拶の後、議事に入り、活動報告・収支決算と監査報告そして活動計画・予算とともに役員改選などが承認されました。その後、今年度の財団奨学生に財団学友会への入会式と学友バッチの贈呈が行われました。



18時30分より財団奨学金・平和フェロー委員会の
大友累委員の司会のもと「グローバル・地区補助金奨学生壮行会」が海外留学中の奨学生にも参加頂くハイブリットで開催されました。大日向ガバナーのご挨拶、松原委員長より石丸ガバナーエレクトからのメッセージの紹介と出発にむけての激励のメッセージ、鈴木抄織次期学友委員長から財団奨学生を紹介頂いた後、財団奨学生の出発に向けての抱負をお話頂きました。トップバッターは、2022-23年度地区補助金奨学生の大橋直紀さん（イタリアフィレンツェ声楽渡航予定）の素晴らしい声楽と抱負をお話頂きました。続いてZOOM参加の長澤愛美さん（カナダ メディカルイラストレーション）からプレゼンテーション、横田圭祐さん（ドイツ/スイス データサイエンス）から留学に至った経緯と抱負をお話頂きました。そして、グローバル補助金奨学生の朝倉利晃さん（ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院LSHTM予定 疾病と予防・治療）から抱負をお話頂きました。奨学生の留学に対する志の高さを参加者全員で共有したところで、嵯峨義輝パストガバナーの乾杯の挨拶で懇親会に移りました。今回の奨学生の地区内ホストクラブとして、朝倉さんは札幌北RC、大橋さんは、岩見沢RC、長澤さんは札幌西RC、横田さんは小樽南RCをお願いをされており、各クラブから激励の挨拶を頂きました。また、現在留学中の奨学生の皆様から現況と激励を頂くなど、奨学生にとって大変励みになったことと思います。宴も進み、大日向ガバナーと出村財団副委員長から奨学生の皆様と今年度で地区委員長を終わられる方へ記念品の贈呈があり、福井敬悟副ガバナーから激励の挨拶、松浦光紀ガバナーノミニーから閉会の挨拶を頂き閉会となりました。



とても思い出深い壮行会になりました。お忙しい中、出席頂きました皆様にお礼と感謝を申し上げます。

ガバナー補佐・地区委員会委員長 引継ぎ会議を終えて

地区代表幹事 **能戸 彰**



2022年6月19日(日)午前中はガバナー補佐引継ぎ会議、午後からは地区委員会委員長引継ぎ会議が開催され、当年度のほとんどの行事が終わってしまいました。このような会議が当地区では何年前から開催されているかはわかりませんが、私が代表幹事としてかかわった2021-2022年度はコロナ禍の影響が少しはありましたが、昨年、一昨年と比べると軽微なものでした。特にガバナー公式訪問に際しまして、必ず地区幹事が同行する形をとらせていただきましたが、その折のガバナー補佐の方々の熱いおもてなしに感謝申し上げます。この会議には1名もかけることなく全員の出席をいただき、深く御礼申し上げます。グループでのIM開催ができなかったり、懇親会抜き短縮であったりとガバナー補佐のご苦労に対して敬意を表すところでもあります。次期ガバナー補佐の方々に対しても先輩補佐として、援助・協力をしてあげていただきたいと思います。



また、午後からの委員会委員長引継ぎ会議には現・新合わせて40名の地区幹事・地区委員長が集まり、今年度の活動報告の発表、また次年度地区委員長からは活動計画の発表がありました。報告では各委員長は、やり切ったという満足感が感じられ、また、次期委員長からは、期待感と意気込みが感じられました。

出席はかないませんでしたが、地区研修リーダーの羽部PDGから寄せられたメッセージ、本当にありがとうございました。また、地区研修員の嵯峨PDG、武部PDG、1年間お導きいただき本当に感謝に堪えません。ありがとうございました。



国際ロータリー第2510地区 2021-2022年度

第19回 RYLAセミナー報告

地区RYLA委員会 委員長 西方 洋昭



コロナ禍で中止を余儀なくされていた第2510地区RYLAセミナーを3年ぶりに三笠市桂沢、湯の元温泉にて開催。当日は小雨のちらつく中であつたが17名の若手リーダー達が集まつた。

この日初めて会う受講生達は不安と期待の中で2グループに分かれて開講式に臨んだ。石丸ガバナーエレクトの御挨拶の後、私（地区RYLA委員長）から2日間のスケジュールを確認。早速アイスブレイクのネイチャーゲームでグループ内の緊張をほぐす。アクティビティプログラムのラフティ



ングとツリークライミング、非日常体験をグループで共有することで、より一層気持ちが打ち解けてきた。アクティビティの合間の昼食はコ・ホストの岩見沢RCが準備、カレーライスその他ハンバーグや焼肉アラカルト、デザートまで岩見沢RCに混じって首にタオルを巻き付け汗だくで肉を焼く石丸ガバナーエレクトが印象的であつた。夕方からはグループワークの時間、基調講演では嵯峨パストガバナーから幾春別川を良くする市民の会での苦勞話をして頂き、その後今回のテーマ「大自然と共生する北海道の未来」を各グループがそれぞれ意見を出し合い最終的にどの様な未来へしていくかのプレゼンを行うという課題に取り組みました。グループワークはブレインストーミング、KJ法で模造紙を使って行う。各グループには男女一人ずつカウンセラーが寄り添う、ホストクラブの札幌手稲RCからは平川さん、高張さん、岩見沢RC小川会長、札幌大通公園RC鈴木会長が付かず離れずの絶妙な関係で付き添う。夕食後は福井パスト

ガバナーによるリーダーシップの講話、受講生は講話の中から重要ポイントを聞き出しグループワークに反映させる。講話を聞き終え、夜も深まったところで火を囲んでのカウンシルファイアの時間、斉藤副委員長の話を聞きながら受講生はそれぞれ自分と見つめ合う時間を体験する。その後再びグループワーク、意見がどんどん出始め気がつけば24時、そろそろ就寝の時間と



なり1日目を終える。

2日目は6時起床、ラジオ体操、朝食を終え、朝のお説教の時間と言う事で羽部パストガバナーからロータリーについて又仏教についての講話を聞き、受講生は仕上げのグループワークに入る。この頃になるとグループ内はすっかり打ち解けプレゼン方法など意見が飛び交う。そしてグループごとのプレゼン。ガバナーやパストガバナー他ロータリアンに向かってプレゼンを行う。その様子を見ながら若者の成長ぶりに目頭を熱くするロータリアン。閉講式では大日向ガバナーからの労いの挨拶、そして修了書を1人ひとりに授与。最後に私から2回目もRYLAに参加して欲しい、そしてライラリアン、学友となって運営側として携わって頂きたい旨を伝え、1泊2日の全プログラムを終了した。今回コロナ禍と言うことで短縮の1泊2日開催であったが、多くのロータリアンの協力により中身の濃縮された素晴らしいRYLAとなりました。御協力いただいたロータリアン他関係者に心より感謝と御礼を申し上げ報告と致します。



年次大会報告

大西 正啓



6月16日(木)から17日(金)の2日間にわたりRI第2510地区インターアクト年次大会が定山溪ビューホテルにて開催されました。この年次大会は、第2510地区のインターアクトクラブ6校のインターアクターが一堂に会する唯一の機会であり、前回室蘭にて開催されてから3年ぶりに開催できましたことを大変うれしく思っております。参加者も6校中5校のインターアクター79名・顧問教諭9名・大日向ガバナー・山口地区青少年奉仕委員長をはじめロータリアン15名のご参加をいただきました。年次大会にあたりホスト校である札幌山の手高校の西岡校長、西田先生をはじめ札幌西北RCの皆様・ご担当の海野委員には事前準備等いろいろなお協力をいただきまして、このような素晴らしい会場での年次大会が実現できました事を深く感謝申し上げます。プログラムにつきましても1日目は、スクールカウンセラーの畠山喜代志様より構成的グループエンカウンターについてご講演いただきました。エンカウンターとは本音を表現しあいそれを互いに認め合う体験のことです。さらに構成的エンカウンターになると、リーダーの指示した課題をグループで行い、その時の気持ちを率直に語り合うことで心と心のキャッチボールができ、自己理解・他者理解・自己受容・感受性の促進・自己主張・信頼体験を促すものです。このプログラムでは、他校のインターアクター同士があっという間に溶け込み互いに協力し合い課題を解決する姿を目の当たりにすることができ、想像以上にその効果を実感することができました。2日目は、勇者の会代表の小松美幸様より小児がんについて考えるをテーマに講演をいただきました。実際に小児がんに苦しむ子供の現状をご紹介いただき改めて健康でいられることがいかにありがたく尊いのかを痛感しました。患者の子供たちの心が少しでも安らげるようインターアクターから様々なアイデアが出され各自が自分事として寄り添う姿が垣間見られ温かい気持ちになりました。両プログラムを終えた後の各校の代表による感想発表では、ほぼ2年間対外的な事業が行えなかった中、今回の年次大会を心から楽しんだという意見が多数出されました。我々ロータリアン顔負けの各プログラムに対する素晴らしい感想が述べられ、私としても感無量でした。改めてこの年次大会がインターアクターにとって大切な学びの場になることがわかりましたので、今後とも各提唱クラブのロータリアンはもちろんのこと他のロータリアンの皆様にも是非1度この年次大会をご体感いただきご支援を頂戴できましたら幸いに存じます。



第49回 ローターアクト地区大会開催報告

地区ローターアクト委員会 委員長 川本 康裕



6月25日に第49回ローターアクト地区大会が開催されましたので、ご報告いたします。昨年度の地区大会に続き残念ながらオンラインでの開催でした。ぎりぎりまで現地開催を模索していたものの参加者の健康を考慮しての判断であると、地区代表の城地さんがやや残念そうに説明していました。

登録人数は216名であり、参加者は51名とのこと。オンラインということもあり地区

外からの参加も多くみられました。また、アクトを提唱していないクラブのロータリアンも参加されおり、アクトを勉強するためにと参加したと話されていたのが印象的でした。

地区大会のテーマは縁人(エンジン)ということで、主なプログラムは縁を感じさせる2部で構成されており、1つ目はアクトが製作した短編映画でありました。今までアクト地区大会には何度か出席したことはあるが、簡単なフォトムービーや動画作成はあったが、脚本から作りあげた短編映画は初めてではないかと思う。カメラでの撮影や動画の編集が容易になったとはいえ、クオリティーの高い作品で、若い青年が周りの人々との縁を感じながら成長していく様が描かれていた。WEB関連の仕事をされている城地地区代表のカラーが全面に感じられた作品であったと感じました。この作品は後日、YouTubeで配信予定とのことで、詳細がわかりましたら追ってお知らせしたいと思います。

2つ目は過去にローターアクトの地区代表を経験したことのあるロータリアンお2人と城地地区代表のトークセッションであった。過去の経験を伺うことによって、これからのローターアクトの活動のヒントを得ようとする試みであった。私は2022年度よりローターアクト委員長を拝命しているが、今後のローターアクトについて非常に参考になるお話が聞けたと思っています。

閉会式では、城地地区代表から次年度の地区代表である小椋さん(室蘭北RAC)に代表バッチが引き継がれました。小椋さんは挨拶のなかで、地区の活動も重要であるが、まずはクラブ単位の地域に根差した奉仕活動が重要ではないかと述べていました。昨年度にRAC全国研修会のホストであったため、地区での準備がメインの活動となっていたここ数年であったが、原点に立ち返り活動していくという意気込みが込められていたと感じました。

来年の地区大会は第50回の記念すべき節目の地区大会になります。その時は、現地で皆様にお会いし、お酒が酌み交わせることができるような状況になってほしいと切に思うばかりです。



ガバナー公式訪問報告

北広島ロータリークラブ

8/24 火

大日向ガバナーをお迎えして

8月24日、コロナウィルスの流行によって蔓延防止措置がとられている中、はるばる函館より当クラブのためにお越しいただきましたこと、感謝申し上げます。会長・幹事会、クラブ協議会においては、力強い励ましとクラブ運営についてのアドバイスをいただきました。特に印象的であったのは、会員増強に対する熱意でありました。当クラブは、ここ2年、新規会員の加入が無く、会員増強においては停滞しており、喫緊の課題でありました。

その状況から、会員増強についての適切なお指導と叱咤をいただきましたこと、会員一同感謝と身の引き締まる思いをしたことであります。また、ロータリークラブ加入の魅力についてもお話いただいたことであります。内部の充実のことです。ガバナー自身の経験から、ロータリークラブは「人を育てる場」であると言われました。ロータリークラブのサービス精神を考への基軸に置き、一人でも多くのロータリアンを生むことが、私たちの最も大きな活動であることを教えてくださったのです。



掲載が遅れましたことお詫び申し上げます。

ガバナー月信担当 岡田



2021-2022年度 ガバナー補佐退任挨拶



第1グループ ガバナー補佐
鈴木 康伸
(留萌RC)

ガバナー補佐退任にあたって

2021-2022年度、大日向ガバナーのもとで第1グループのガバナー補佐を務めさせて戴きました。7月のガバナー公式訪問からはじまり、これからという矢先に緊急事態宣言が出され、一時活動がストップしましたが、緊急事態宣言が解除になってからは何とか各クラブともロータリー活動をこなしてきました。地区大会もハイブリッド開催という事でしたが、楽しく参加させていただきました。35年のロータリー人生でコロナもそうでしたが、ガバナー補佐と言う立場も経験させていただきました。補佐としてのクラブ訪問でより多くの仲間が出来、やはりクラブ訪問による交流というものは人間関係を作るうえでも大切だという事を実感させられました。このロータリアンの友情を大切に今後ロータリー活動に活かしていければと思っております。本当に貴重な体験をありがとうございました。



第2グループ ガバナー補佐
堀江 和美
(砂川RC)

感謝します。

新型コロナウイルス感染症拡大の中で、第2グループ(赤平RC、芦別RC、砂川RC、滝川RC)の各クラブの会長・幹事を中心にした会員各位によって、例会等の行事開催に向けてご努力され各クラブの特徴ある活動が行われたことに心からご尊敬申し上げます。

就任当初の挨拶の中で、『必ずや新型コロナウイルスを克服して新たなステージに向かうことになるかと確信していますが、この機会に常識と想っていたクラブの運営等を見直すチャンスと考えることも一つのありようかもしれません。』と述べましたが、まさに各クラブにおいて、運営等を見直すことに真摯に取り組んでいただき、より強いクラブになったのではないのでしょうか。

各クラブの会長・幹事の皆様と、都市連合会(IM)の開催の是非をご相談して、新型コロナの感染リスクを考慮して開催中止としましたが残念なことでした。

最後に、ガバナー補佐として活動は、新型コロナ禍の中とはいえ、私の能力不足のため十分に行うことができませんことをお詫びして、終了の挨拶とさせていただきます。



第3グループ ガバナー補佐
早河 常機
(美唄RC)

第2510地区は永遠に・・・

第3グループのガバナー補佐を務める事となり、初めて第2510地区組織図をつぶさに見た私は、その「マンモス」に少々驚きました。(もっとシンプルにならないものかと…?)

会員増強については、年々その必要性が叫ばれているものの全体としてむしろ減少傾向にあります。

当クラブ(美唄)も懸命に会員増強を行なっているものの、会員の死亡・高齢(施設入居)による退会があり、減少しております。

この事から単に「会員増強」ではなく地区全体として各クラブの現状を十分調査し、その上で会員数の適正な維持策を構築していくべきだと考えます。

おかげ様で第3グループは、地区大会同様IMを開催する事ができました。これはホストクラブである美唄RC会員の結集と、第3グループ8クラブの協力の結果であると感謝致しております。

最後に、大日向ガバナーとそのスタッフに深甚なる敬意と第3グループに寄せられましたご指導に対しまして、心から感謝申し上げます私の退任の挨拶といたします。



第4グループ ガバナー補佐
久保 隆
(札幌西北RC)

貴重な体験

大日向ガバナー年度、第4グループガバナー補佐を務めさせていただきました。前年より続いておりました新型コロナウイルス感染症による、先の見えない中、7月から札幌市内でのガバナー公式訪問が始まり、無事終了いたしました。同行された地区代表幹事、地区幹事の皆様、大変ご苦勞様でした。会長・幹事会においては、交換学生支援について支援委員会の細則の再構築までこぎつけたことは成果があったと考えております。

また、IMはコロナ禍の影響により残念ですが中止とさせていただきます。

地区大会におきましては、ガバナーはじめ、地区代表幹事、地区幹事、函館五稜郭RCの皆様大変お疲れ様でした。

ガバナー補佐として各クラブを訪問させていただき、それぞれが充実したメイン事業を持ち、活動されていることに感銘させられました。この一年、ガバナー補佐としての経験は貴重でありましたし、今後あらゆる機会においてこの体験を皆さんに伝えていきたいと思っております。

本当にありがとうございます。



第5グループ ガバナー補佐
有田 京史
(新札幌RC)

コロナ禍が続くなかで

2021-2011年度第5グループガバナー補佐を務めさせていただきました。

コロナ禍が続く状況の下ではありましたが、第4グループ久保ガバナー補佐と様々なご相談を重ねながら第4・第5グループ合同会長・幹事会を上期と下期に開催することが出来ました。会議に於きましては、第4・第5グループの共同事業として長年継続されてきた青少年交換学生の支援基金の管理の現状がテーマとなりました。それを受け、よりしっかりと資金管理・受入れ協力体制を整備すべく、久保ガバナー補佐と共に支援委員会準備会を招集して「市内ロータリー交換学生支援委員会」を再構築致しました。会則・会費等につきましても第2回合同会長・幹事会で承認されました。2年間中断されておりました青少年交換事業も次年度には再開されますので、また基金が有効に活用されますようお願いしております。また、合同事務所移転の課題も、合同会長・幹事会が情報共有の場として有効に機能したと思っております。

ガバナー補佐としては全く至らない反省ばかりの一年間でありましたが、ご指導頂きました大日向ガバナー、地区幹事の皆様そしてご協力頂きました第4・第5グループ会長・幹事の皆様に心より感謝申し上げます。



第6グループ ガバナー補佐
松浦 光紀
(小樽南RC)

2021-22年度 地区第6グループ ガバナー補佐活動報告

今年度、地区第6グループガバナー補佐を担当させていただきましたが、残念ながら新型コロナウイルス禍にあって、当初計画しておりました活動は十分な成果を挙げることは出来ませんでした。第6グループは後志地方の会員数8名のクラブから70名を擁するクラブ大小7クラブの集まりです。グループは全体的に会員数は減少傾向にありました。その中で将来を見据えクラブの活性化を考え、互いに助け合う組織として、仲間達と知り合い、理解し、信頼することを目標と致しました。その一つに各クラブが一つの奉仕活動に参加することを目標に置きました。9月の尻別川の清掃活動に参加を呼びかけました、しかしコロナ禍に依り地域の町民主体となりましたが、翌年6月の同河川の清掃には3クラブの参加と大日向ガバナーの特別参加で協力することが出来ました。又、例年開催されておりました、インターシテイミーティング(IM)につきましては、参加人数を50人に絞り4月に実施致しました。全参加者を所属クラブとは離れ8グループに分け「地域社会の中のロータリー活動」について議論して頂き、グループ毎に発表して頂きDVDに纏め各クラブに配布致しました。1年間の短い期間でしたが、地域のロータリークラブの活動について見聞させて頂き、且つ多くの仲間と知り合い、未来に繋がる経験を積ませて頂きました。



第7グループ ガバナー補佐
天野 敦子
(長沼RC)

友情に包まれた一年

「何処で会ってもやあとやおうよ」「ロータリーの友情に免じて・・・」と歌にも、挨拶にも友情が高らかに謳われるロータリーですが、2021-2022年度 ガバナー補佐を仰せつかり、退任を迎えた今、思うことはまさにロータリーの友情に包まれた一年であったということです。

グループ内のどのクラブを訪問しても、いつも温かく迎え入れてくださり、ガバナー補佐を盛り立てていただきました。

いまだに続くコロナ禍ではありましたが、各クラブともオンラインを駆使したり、時短にしたりと何とか例会を開催しようと努力していらっしゃいました。

それは繋がり大切さを実感しているがこそでしょう。

また、三年ぶりに開催することができましたIMですが、各クラブの皆様と話し合いを重ね、協力をいただき、実施に向け一丸となった結果とありがたく思っています。

繋がり大切さを実感した今、これを未来に繋ぐよう精進する所存です。

皆様、一年間ありがとうございました。



第8グループ ガバナー補佐
山田 一孝
(静内RC)

退任のご挨拶

一つの事をやり遂げた後はすがすがしい充実感に包まれるものです。しかしながら、ガバナー補佐在任中のこの1年間は、新型コロナウイルス感染症の蔓延が大きな障害となり、年度当初に計画した総ての会合・行事が延期または中止に追い込まれ、無力感との戦いになりました。もっとも会議の開催は参加者が一堂に集まらなくともインターネットを使えばできるという貴重な体験もさせて戴きましたが。

有難いことに私が所属する静内RCを始め、グループ内各クラブの皆様には常に暖かいご支援ご協力を賜り、ロータリアンの友情に感謝しております。

先日、私が居住する新ひだか町の7月号広報が届きました。なんと人口21,219人(11,497世帯)の町で6月中旬に誕生した子供は僅か4人、逝去した数は18人と記されています。町は縮小しており、これが地域の現状です。

地域社会の人口減少・過疎化によりロータリークラブの会員維持はますます厳しくなります。第8グループの会員数は9年前と比べると30人の減員となっております。(幸い女性会員は5名から8名と僅かですが増加しています。)しかし、現状維持で良しとするのは禁物です。常に会員増強をしなければ会員は必ず減少します。ヒトは必ず歳をとりますから。

若い力を増強しましょう。



第9グループ ガバナー補佐
鈴木 啓一
(伊達RC)

友情に感謝

『奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために』のテーマのもと、スタートした2021-22年度。大日向豊吉ガバナーは「不忘感謝先人偉業」を提唱し始まった各クラブ公式訪問、当初9月に予定されていた日程がコロナ禍の影響から二転三転し11月後半にずれ込む事となり波乱の船出。折しもユネスコの世界遺産委員会は令和3年7月27日、「北海道・北東北の縄文遺跡群」を世界文化遺産に登録を決めました。登録されたのは、北海道と青森、岩手、秋田の3県に点在する17遺跡。うち北海道は6遺跡で貝塚と集落跡の「伊達市：北黄金貝塚」「洞爺湖町：高砂貝塚・入江貝塚」の3遺跡を第9グループ内に擁します。私達はその縄文人の人生を確実に引き継いで現在に至っているもの「不忘感謝先人？」と思慮されます。前年度世界中に蔓延した新型コロナウイルス感染症の早期収束を願っておりましたが、その願いも虚しく変異株の感染拡大が続いております。このような状況下のもと会員が一堂に会したIMも中止を余儀なくされましたが、この1年間会長・幹事会をはじめ諸事業を計画する中で、当たりどころの無いコロナ禍において第9グループ内の結束がより一層深まったのではなかったでしょうか。大日向ガバナーをはじめ地区役員の皆様、グループ内のメンバーの友情に感謝を申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。



第10グループガバナー補佐
宮崎 昌
(函館RC)

第2510地区 全ロータリアンに感謝

2021-2022年度第10グループガバナー補佐を務めました宮崎です。この1年間コロナと闘いながら、どうか6つのクラブ3～4回の定期訪問が出来ました事は大変喜ばしいことでありました。不完全燃焼ではありますが、所期の目的をある程度達成できたのではないかと自負をしております。それは「地域に奉仕するロータリー」を実践できた事です。世界遺産登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」のうち、10グループ内にある①函館垣の島遺跡の看板設置②森町 鷺の木遺跡のモニターテレビの寄贈此の事に10、11グループロータリアンの全員の気持ちがこめられました。

この度のこの奉仕事業は看板の設置や寄贈という行為だけにとどまらず、ロータリーの本質を的確に捉えたものと高く評価されるものと思っております。コロナ禍における今回の奉仕は後世に引き継がれていくものであります。

1年間大日向ガバナー、他グループガバナー補佐、地区役員の皆様、事務局の寺島さんそして何より10、11グループのロータリアンには特段にお世話になりました。

ロータリー活動を今後も更に推し進め、「ロータリー」の良さを広く、多くの人に広めていきたいと思った1年でもありました。第2510地区の益々のご発展、そして第2510地区ロータリアンの益々のご健勝、ご多幸を祈念しまして1年間のお礼の言葉とさせていただきます。有難うございました。



第11グループガバナー補佐
五十嵐 稔
(函館東RC)

11グループクラブの友情に感謝

2021-2022年度、RI第2510地区、大日向ガバナーのもと、第11グループのガバナー補佐を拝命し、退任のご挨拶を一言させていただきます。今年度もコロナ禍のため各クラブ訪問もなかなか思うようにできない時期もありましたが、各クラブのご厚意並びに友情に接し滞りなく各クラブ4回のクラブ訪問をさせていただきました。各クラブにおかれましてはいろいろとコロナ禍で大変なご事情等あり奉仕活動もなかなかうまくできないようでしたが、そんな中ガバナー補佐として暖かくクラブにお迎えしていただき本当に暖かい友情を感じる1年でありました。これもガバナー補佐という大役を拝命したからこそその経験であり、私の宝となりました。

また第10・11グループとしてのIMの開催のため委員会を立ち上げましたが、コロナのため中止とさせていただきました。本当に残念でなりません。それでも大日向ガバナー推奨の地域活動につながる奉仕活動として第10・11グループ合同で『北海道・北東北縄文遺跡群』が世界遺産に登録されたことに対し、函館市の『垣ノ島遺跡』にはモニュメントサインを、森町の『鷺ノ木遺跡』資料館にモニターテレビを寄贈する事業を成功させることができました。これも各クラブの結束の結果だと思えます。

事務局にはいろいろなことで電話やメールのやり取りでご迷惑をおかけした点多々あったかと思えます。一年間どうもありがとうございました。

当函館東RCの会員の皆様にも温かくガバナー補佐の大役をご支援していただきましたこと、ありがとうございました。

簡単ではございますが退任のご挨拶とさせていただきます。



第12グループガバナー補佐
小幡 直樹
(苫小牧東RC)

温かい友情に感謝

2021-2022年度RI第2510地区第12グループのガバナー補佐を務めさせていただきました。この1年間ガバナー補佐として多くの貴重な経験をさせていただきました。まだ、コロナ禍が完全に終息しない中、5月21日にIMを、当東クラブの創立30周年記念式典と合わせて開催させていただきました。その節にはたくさんのロータリアンが出席していただき、ここであらためて感謝を申し上げます。

ガバナー補佐就任時には「クラブと地域の架け橋になる」という目標を掲げて、1年間邁進してきました。各クラブともやはり、コロナ禍の中で思った活動ができず、計画通りできない無念さを持ちながらこの1年間が終わったように感じます。しかし、振り返りますと、大日向ガバナーのアドバイスのもと第12グループの各会長、幹事、会員皆様の友情のおかげで大過なく過ごさせていただいて、1年間活動できたことも私自身大変に進歩であり今回の機会を通しいろいろな方からの影響を受けロータリアンとして若干成長できたのではないかと感じています。

最後に大日向ガバナー、地区幹事の皆様、事務所スタッフの皆様、そして、第12グループの皆様1年間本当にお世話になりました。

2021-2022 年度 地区委員長退任挨拶



委員長
武部 實
(札幌南RC・PG)

【地区会員増強委員会】

会員増強委員長の三年間を振り返り

福田武男ガバナー年度に会員増強委員長を指名され、この年から会員増強委員長の任期が三年間になりました。私は、ガバナーとしての公式訪問で、どのクラブも地域に密着した素晴らしい奉仕活動をされていることに感動いたしました。ガバナーの役割は国際ロータリーのテーマや方針を伝えることよりも、地区内各クラブの活動を広く知り、公共イメージ向上と会員増強に繋げる事が重要だと考えます。

財界さっぽろ・舟本秀男社長（札幌南RC）のご厚意好意で、私の年度から国立年度、小山年度の三年間、月刊誌財界さっぽろで毎月2ページを無料で提供して頂き、地区内70全クラブ及び地区委員会の活動取材し掲載して頂きました。

会員増強委員会は広報・ICT委員会の協力を頂き「ロータリークラブは何をしている団体？」のタイトルで掲載された内容全てを小冊子として発刊致しました。又、国際ロータリーの代表的奉仕活動であるポリオ根絶活動と、各クラブの代表的奉仕活動を1枚のチラシにし各クラブに提供致しました。

今年度は、千歳セントラルRCの協力を頂き、会員卓話用の動画のパワーポイントを作成し（19分）地区内全クラブに配信いたしました。会員増強委員長としては十分エネルギーをかけた活動であったと思います。残念ながらこれらの成果が全く活用されていないことです。次期会員増強委員会に期待いたします。



委員長
福田 武男
(千歳RC・PG)

【地区RI国際大会推進委員会】

2021-2022年度の国際ロータリー年次大会は、6月4日～6月8日までの5日間の日程で、米国テキサス州ヒューストンで開催されました。

COVID-19パンデミックが広がる中で、当初は当地区から20名以上の参加希望者がありましたが、4月末のキャンセル可能期日に向けて徐々に減少し、最終的には当地区から参加した会員はおりませんでした。

新型コロナウイルス感染症蔓延は米国でも感染者の増減を繰り返し、その勢いが止まらないだけでなく、米国南部のテキサス州では、ヘイトクライムや反マスク、反ワクチン運動など、安心して会員を誘って行ける場所ではないと判断しました。

「オンライン開催」ではなく「対面式開催」でありながら地区として国際年次大会に全く参加しなかった年度は今までにはなかったように記憶しております。

参加を希望されていた会員の方々には大変申し訳なく思っております。

一時は「オンライン開催」も同時並行であり、いわゆる「ハイブリッド開催」になるという情報もありましたが、正式なRIからの案内はありませんでした。

ちなみに公式発表ではありませんが、日本事務局の情報では、

世界全体；23,046名、日本34地区；470名

次年度はオーストラリア、メルボルンでの開催になります。新型コロナウイルス感染症が完全に終息し、戦争も穏やかに終了した中で、福井敬悟PGをリーダーとして素晴らしい旅ができることを祈念しております。



委員長
酒井 正人
(函館五稜郭RC・PG)

【地区立法案検討委員会】

地区立法案検討委員会の役目は地区内各クラブから提出された決議案と制定案を審議し地区として審議会に提出する制定案・決議案を取りまとめることです。委員会で取りまとめられた制定案・決議案はロータリーの定める提出期限に間に合うよう、地区大会に上程され、地区提案として決議されます。

残念ではありますが、私が知る限りではここ15年以上は第2510地区から決議案や制定案が審議会に提出されておられません。

委員会の委員長は審議会地区代表議員が、副委員長は補欠議員が務めます。今年度は3年に一度の規定審議会がシカゴにおいてハイブリッド形式で開催されました。4月10日から14日まで5日間開催され、審議されたのは92件で内29件が採択されました。採択案件は私から各クラブに配信された報告書と国際ロータリージョン・ヒューコ事務総長からそれぞれのクラブに配信されております。

採択案件は同年7月1日から施行されますが、重要なことは定められた期間内に5%のクラブから採択案件に反対表明が提出されるとその案件は一時保留され再審議されます。

大切なことは私たち会員がロータリーの組織規定の立法に関わることができ、私たちの意志でロータリーを変えることも守ることもできるということです。

地区立法案検討委員会の委員長と委員は3年任期でもう1年同じメンバーで勤めますのでよろしくお願いいたします。



委員長
細川 好弘
(静内RC・PG)

【地区危機管理委員会】

『大丈夫だろう』が最大の危険です。

危機管理委員会は、ロータリー活動での青少年交換から青少年奉仕関連奉仕事業で若者を守る事が最優先として、関わったロータリアン迄、もしもの時の備えとして保険対応が適用される、略称RIJYEM（国際ロータリー日本青少年交換多地区合同機構）と言う法人組織に第2510地区も社員として加入をして対応しております。

コロナ禍の中、終息が定められない近況ではありますが、RYLAセミナーが無事終了する等、関係者の熱意に敬意を表します。

ローターアクトの立ち位置も、確定した事から、その対応がこの程決定致しましたので、2022-23年度から、地区としての危機管理計画を策定する作業が進展致します。

その為の素案や関連資料の引継ぎは終了しておりますので、これよりの情報はガバナー始め、関連委員会や各クラブへ周知が必要だと思えます。

本年度は現在迄無事故であります。

青少年やロータリアンを守る危機管理は不可欠であります。保険対応も万全ではありませんが、あくまでも主催者側の責任が問われる場合の保険ですので、もしもの時の急々な処理が発生した場合の為の基金を設備しておく事は、全国的懸案となっております。万全を期する為の検討を進められようお願い申し上げて活動報告とさせていただきます。

★委員会は2021年8月6日ガバナー事務所にて、ガバナー同席で開催。その後は『委員会だより』で情報共有を図りました。



委員長
石川 信行
(札幌手稲RC)

【地区文献資料室】

2019年から3年間文献資料室を担当させてもらいました。ロータリー歴の浅い自分が委員長を引き受けるにあたっては迷いもありましたが、委員をさせてもらったなかで、「時代に合った文献資料室の運営の仕方があるのではないか」ということも考えるようになっていましたので、好機と考えお引き受けしました。

まず、文献資料室の主な業務は札幌合同事務所に保存されているDVDや書籍の管理・貸出ですが、貸出の利用は低調で、年間数件にとどまっています。資料の整理を含めた改革を委員会メンバーと改革に向けての議論を進めようと考えておりましたが、予期せぬ新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、昨年度までは委員会開催もままならず、不完全燃焼の活動となってしまったことは不徳のいたすところです。

「このまま抜本的改革もないまま任期を終わるのか」という不安もありましたが、図らずも合同事務所の移転問題が勃発し、急ピッチでの議論を進めることとなりました。現在2022年8月の合同事務所移転に合わせて、資料の整理を鋭意進めているところです。移転の前に委員長を退任することとなりますが、委員会としては私を含め委員全員が留任することで、移転プロジェクトに対応したいと考えております。



委員長
前田 浩人
(苫小牧RC)

【地区学友委員会】

2021-2022年度地区学友委員会活動を終えて

2021-22年度地区学友委員会の活動といたしましては、7月17日(土)ロイトン札幌を会場に財団奨学金・平和フェロー委員会主催の「グローバル・地区補助金奨学生壮行会」が開催され、学友委員会として参加協力させて頂きました。新型コロナウイルス蔓延に伴い昨年度の渡航を延期された2020-21年度奨学生2名及び2021-22年度奨学生3名が参加され無事壮行会を終えることが出来ました。11月7日「第10回日本ロータリー学友会全国総会」が千葉県成田市の成田山新勝寺・光輪閣を会場にハイブリット形式にて開催され、日本ロータリー学友会幹事の鈴木抄織さん、富岡豊地区国際奉仕・VTT委員会委員長の2名の方にRI第2510地区学友委員会代表として参加していただきました。

また、学友委員会主催の「第6回学友交流会・帰国報告会」につきましては、昨年と同様に新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、最小限の人数での会場参加とリモート参加により2022年1月29日(土)に、ロイトン札幌を会場にハイブリット方式にて開催されました。しかし、欧米においても昨年同様数万人というコロナウイルス感染者が発生している関係で、留学生、奨学生の皆様が海外への留学先に、また、海外から日本への留学先に以前のように渡航できずにいることなどから、今年度の発表者はいつもより少ない5名の発表となりました。今回リモート開催を初めて経験させていただき、時差はありますが世界中の奨学生、留学生や関係者の皆様と発表会を共有できたことは大変有益な体験でしたし、今後もこのような発表会が主流になっていくものと思われました。本年度の報告会で発表される皆様は、ロータリープログラムに参加が決定した時点から学友会のメンバーとなります。地区学友委員会は、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、ライラリアン、ROTEX、米山奨学生、財団奨学生を対象にこれらの学友とロータリーをつなげる組織としての学友会活動を支援しており、支援活動の一つとして「学友交流会・帰国報告会」を毎年開催しております。今年も昨年に引き続き5名の方に学友体験報告をしていただき、最後に17名の会場参加者及び17名のZoom参加者の皆様から、発表された方々への質疑応答が行われ、大変有意義な報告会となりました。しかし、毎年「学友交流会・帰国報告会」終了後、会場を移して懇親会が開催され、新財団学友メンバーと親交を深めておりましたが、残念ながら今年度も新型コロナウイルス蔓延に伴う自粛により懇親会は行われませんでした。その後、学友会ニューズレター編集委員会のメンバー協力のもとニューズレターVol.6を完成させることが出来、これらを国際ロータリー第2510地区ホームページの委員会報告に掲載、加えて冊子をロータリアンメンバーの皆様へ配布することで学友委員会活動をアピール出来たのではないかと考えております。また、過去2年間、7月に開催されていた財団奨学金・平和フェロー委員会主催の「グローバル・地区補助金奨

学生壮行会」が新型コロナウイルス蔓延防止措置解除に伴い、6月4日(土)ロイトン札幌を会場に開催され、国際ロータリー第2510地区財団学友会総会も同時に行われました。今回2022-23地区補助金奨学生3名、グローバル奨学生1名が参加する壮行会に学友委員会として協力参加させていただき、今年度予定されておりました学友委員会の事業を概ね終了することが出来ました。最後に今年度の地区学友委員会活動におきまして、大日向ガバナー、学友委員会委員の皆様、学友委員会関係者の皆様、財団学友会の皆様、ガバナー事務所寺島様に多大なご協力を頂き、無事今年度の事業を終了することが出来ましたことに深く感謝申し上げますご報告とさせていただきます。



委員長

渡邊 葉子

(札幌西北RC)

【地区 RLI 委員会】

貴重な経験を有難うございます

この地区の、RLIは、国立金助PDGの熱い思い、『この地区にRLIを導入したい』そこから始まりました。

何も解らない私は、青森でRLIセミナーが開催されると教えていただき、受講させて頂きました。伺うと、福田武男PDG、玉井清治地区職業奉仕委員長もお越しでした。丸2日間夜まで缶詰め状態で受講させて頂きました。セミナーを統括されていたのは、第2830地区 現、山崎淳一RLI日本支部ファシリテーター委員会副委員長でした。国立年度最終の6月に“体験セミナー”を開催致しました。これがきっかけとなり、翌7月にはRLI日本支部へ加盟し、この地区へRLIが導入されました。

DL(ディスカッションリーダー)が居りませんとセミナーが出来ません。当初からDLをお受けくださった皆様には“感謝”あるのみです。研修を重ね、新DLを育て、一緒に努力してきた掛替えのない仲間。これもロータリーだからこそその絆です。地区役員の皆様、他地区の皆様にご指導頂きながら当地区のRLIは、何とか定着して参りました。

委員がDLを兼務する体制は、負担が大きすぎる為、2021-22年度当初から、RLI委員会とDLグループを分けることを提案させて頂きました。RLI委員会は、セミナー運営・会員に対する広報・データ管理。DLグループは、新DL育成・スキルアップを目指し、セミナーの充実を図る。時期尚早とのご意見もございましたが今年度より踏み切らせて頂きました。今後のセミナーの充実を、ご期待ください。

第3期を終え、パートⅠからパートⅢまで全過程を修了された方が、約90名となりました。今後ますますDLの層が深まります。各クラブに修了された方が増え、リーダーシップを発揮され、クラブ活性化に繋がると確信しております。

2022-23年度より、当初から副委員長としてご活躍いただきました札幌手稲RC平川香織さんが、委員長を務められます。熱心で、一生懸命な方ですので益々のRLI委員会の充実が確約されております。

最後になりましたが、行き届かぬ私を支えていただきました委員会の皆様、DLの皆様、地区役員の皆様、特に当初よりご指導頂きました酒井正人PDGに心よりの感謝を申し上げます。有難う御座います。今後ともよろしく願い申し上げます。



委員長
北川 好和
(札幌南RC)

【地区クラブ奉仕委員会】

拝啓 皆様にはますますのご盛栄お喜び申し上げます。7月を迎え私の住む札幌でも小さな向日葵が梅雨空を仰いでおります。皆様も新年度の新たな息吹をお感じになっているのではないのでしょうか。

さて、2021-2022年度も先の見えないコロナ禍において、クラブ各位・会員の皆様方におかれましては大変な1年であったこととお察し致します。私ども地区クラブ奉仕委員会も、「クラブの活性化のための魅力あるサポート」を目的とし、公共イメージや情報通信技術の向上、各種情報の提供という目標達成に向けて暗中模索の1年でございました。その中で、①Webアンケートの実施及び調査結果の発行 ②未来ビジョン委員会等の設置 ③広報ハイブリッドカードの普及努力 ④ロータリー奉仕デーの呼びかけと実施。以上4項目を始動することが出来ましたことは、ひとえに皆様のご協力とお力添えの賜物と感謝申し上げます。

2022-2023年度も委員長を継続させていただきます『クラブが主体!』をモットーに、柔軟かつ積極的な活動を心がけ努力して参る所存です。今後ともご理解とご協力を賜れますようお願い申し上げます。

最後になりますが、大日向ガバナーをはじめ、委員会各位、研修委員長、カウンセラー各位、ともに活動して下さった関係各位の皆様にご心より御礼申し上げます。

敬 具



委員長
松倉 弘
(小樽RC)

【地区公共イメージ向上委員会】

委員会の名称が広報委員会から公共イメージ向上委員会に変更になって二年目を迎えて、従来の広報委員会と公共イメージ向上委員会とは何が違うのかを勉強する所からのスタートでした。今年度も新型コロナウイルス感染拡大があり、対面での委員会開催が思うように出来ない一年でした。

ロータリーを認知しているかどうか、ロータリーに関心を持つかどうかは、クラブが地域社会において存在感を高めることにあり、そのためにクラブに対してどのような支援が出来るのか調査するために、クラブ奉仕委員会の一員としてロータリー情報委員会のアンケートに参加・協力をを行い情報収集することが出来ました。地区目標にある「ロータリー奉仕デー」の実施に向けて、ガバナー補佐の皆様にご各クラブに表敬訪問をした際に、4つの条件と8つのガイドラインをお話し頂くためにZoomにてご説明を行い、各クラブがロータリー奉仕デーに参加するように促して頂きました。さらに海岸や河岸にたどり着くゴミを清掃する活動を通じて、美しい地球を次世代に引き継ぐために、市民の環境問題に対する意識の変容を促すとともに、ロータリーの公共イメージ向上に貢献するプロジェクトである国際ロータリー第2820地区が主催のロータリー奉仕デー地球環境保全プロジェクト(海岸清掃)に当地区も賛同し、クラブにお声かけした結果、ロータリー奉仕デーに地区内の多くのクラブが参加して頂きました。クラブの地域社会との関わり方や継続的な地域社会への奉仕などから地域社会に貢献するクラブの公共イメージは形成されると思いますので、今後もクラブに情報をお伝えしていきたいと思っております。一年間お世話になった皆様にご感謝申し上げます。次年度も引き続き公共イメージ向上委員会をよろしくようお願い申し上げます。



委員長
坂井 治
(千歳セントラルRC)

【地区ロータリー情報委員会】

地区委員会はクラブのためにあるということを念頭に、各クラブとの接点を模索しながらの一年でした。また地区委員もともに活動するということを念頭に活動してまいりました。

まずクラブとの接点ですがクラブがどのようなことを必要としているか、RIや地区のテーマや目標をどのように活動に取り込んでいるかなどの調査もかねてアンケートを行いました。

その結果の一つとして独自の会員増強用リーフレットの必要性を感じているクラブが20数クラブありました。そこでクラブ独自に作る方法をいくつか提案できるように準備し各クラブから送っていただいたリーフレットも含めて地区HPに掲載いたしました。(トップページから委員会一覧⇒ロータリー情報委員会と進んでいけば見られます)そして担当者にはこれを参考にZoomを使って懇談会という形でリーフレットづくりのお手伝いをいたしました。

またグループ内のロータリー情報担当者とのオンライン座談会も開催しました。6月末までに3つのグループが終わりました。参加していただいた会員からは日ごろ他クラブの会員や地区委員会メンバーとの接点がないので大変有意義な会だったのご感想も寄せられました。

本年1月からは次年度委員になられる予定者にもご参加頂き委員会の進行、議事録作成をはじめ各行事にも担当を決めて連絡調整などをしていただき全員参加での委員会活動でした。

今年度多くのクラブの会員の皆さんと情報交換が出来ましたこと、そして委員会の皆さんのご協力に感謝いたします。



委員長
堀元 雅司
(札幌南RC)

【地区ICT委員会】

平素はICT委員会の活動にご理解ご協力を頂きありがとうございました。2021-2022年度大日向ガバナーの目標の中に「ロータリー情報の提供、広報、クラブ目標の設定などあらゆる手続きにおいてインターネットの活用を促進する。」とありました。その目標を進めるために、地区ホームページの充実やMy Rotaryの登録、FacebookなどのSNSの利用も促進してきました。2021-2022年度もコロナ渦の中でクラブではZoomなどを利用したハイブリッド例会が増え、コロナ感染拡大をきっかけにICTの利用としては増えたと感じます。

地区ホームページは、各委員会から直接発信が出来るようになっていきますので、各委員会から活動やお知らせを掲載していただきました。今後、更に委員会やクラブからの情報発信で、ページが充実されれば、もっとご覧になって頂けると思います。今後も、ご協力を頂ければ幸いです。ICT委員会のFacebookもリアルタイムな情報発信で、会員の皆様にも投稿頂きました。会員になって頂いている人数も300人以上になり、ご覧になっていただいている方もいらっしゃるかと思いますが、これから更に、充実させる方法も考えて行きたいと思います。私は、次年度も、引き続きICT委員会委員長を拝命しておりますので、ホームページのリニューアルを含め情報発信やMy Rotaryの登録数も増やすお手伝いをさせて頂きたいと思いますので、何卒、ご協力をお願い申し上げます。



委員長
玉井 清治
(函館亀田RC)

【地区職業奉仕委員会】

今年度終了にあたって

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響にて日本国内、いや、世界中が混乱した1年間でした。職業人の集まりであるロータリークラブも、そして各ロータリアンも前例の無い危機に必死に対応した1年間でした。その中で生業で生き続けて行く私たちロータリアンはクラブの仲間と智恵を出し合い、先輩から指導を受け、皆で助け合い進んで行かなければなりません。奉仕することも思うようにいかなかったこの1年は、原点に立ち止まって職業奉仕を再考するチャンスだったとも言えるでしょう。

職業奉仕とは誰のためにあるのか。クラブは個人の職業奉仕活動をどのようにサポートして行かなければならないのか。今一度真剣にクラブで考えていただきたいものです。

1月の職業奉仕月間も多数のクラブから卓話依頼の予約が入っていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、近くになりキャンセルが相次ぎました。その中でも「何とか職業奉仕だけは会員に伝えたい」と札幌RC様と札幌東RC様、函館東RC様がリアルでの実施を決断いたしました。また、Zoomを活用したオンラインでの実施を札幌西北RC様と千歳セントラルRC様から実施の強い要請がありました。

5年間の地区職業奉仕委員長時代を通して室蘭北RC様、岩見沢RC様、函館東RC様、札幌東RC様につきましては特に職業奉仕の重要性と素晴らしさをクラブ一丸となって認識され、フォーラム等定期的な実施に取り組む姿は印象的で嬉しかったことです。

今年度で職業奉仕委員長を退任いたしますが、いちロータリアンとしても職業奉仕の素晴らしさを発信し続けていきたいと思っております。

皆様、ありがとうございました。



委員長
富岡 豊
(静内RC)

【地区国際奉仕・VTT委員会】

2021-22年度RI会長テーマ『奉仕しよう、みんなの人生を豊かにするために』の元、大日向ガバナー第2510地区を一年間牽引されお疲れ様でした。

地区国際奉仕・VTT委員会はタイ東北部・カンボジアにて第3340地区・第3350地区と共同のもと事業を構築し、各クラブの参加協力を募集し、クラブと共に事業を進める。年度においては、1. 水と衛生 2. 基本的教育 3. 環境の保全での募集とし、グローバル補助金や地区補助金についてはロータリー財団委員会と共同に進めていくこととし、また、持続可能な事業の構築のため、各クラブからの申請額の10%を各クラブからの年次基金寄付としていくことで進めて参りました。

事業実施地のタイ東北、カンボジアでも新型コロナウイルス感染拡大が深刻な状況ですが、長年の信頼関係のもとで事業を進めて行く事が出来ました。

各クラブからの申請については、昨年より2クラブ多いクラブからの申請を頂くことができ、新型コロナウイルス感染拡大で各クラブの皆様からの温かいお気持ちに感謝し、現地と連絡を取り合いながら、事業を勧めることができました。

委員会活動においても、新型コロナウイルス感染拡大の中での活動でしたが、Zoom、ハイブリット等、工夫して委員会を開催しながら有意義な活動とすることが出来ました。

コロナ禍の活動は、苦勞も多かったですが、学びも多い1年でした。改めましてご支援頂きました、大日向ガバナーをはじめ、各クラブの皆様の優しさに深く感謝をお伝えしたいと思います。



委員長
石本
(倶知安RC)

要

【地区社会奉仕委員会】

一年を終えて

前任の高山委員長より引き継ぎました倶知安RCの石本です。前任者のように立派に委員をまとめられるか、コロナ禍でどれ程行動を制限され、十分な委員会活動が出来るか の不安と、初めて地区委員長と言うことで、張り切って各地に出向き多くの会員とクラブ・地域事業について大いに語りたい(社会奉仕サミット)。被災のあった3町を中心に数々行ってきた災害支援事業の総決算として「元気な笑顔を取り戻す」をテーマに青少年スポーツ交流・文化実践(楽器クリニック等)活動を企画してきましたが・・・やはりコロナ禍により延期、「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」が十分出来ませんでした。どれもこれもがコロナ、コロナで思考と行動が止まりそうになった中で、Zoomでの会議をきっかけに従来の経験・原則にとらわれない考え方が少しは出来るようになってきたと思います。その新しい思考から「何か新しい事出来るよ」「どうすればもっと面白くなる、良くなるよ」「ちむどんどんするさ」とリスタートしたいと思います。

次年度も引き続き地区社会奉仕委員長を努めてまいります。会員皆様のご指導・ご協力をお願い致しまして、この一年間のお礼といたします。ありがとうございました。



委員長
山口 史朗
(札幌東RC)

【地区青少年奉仕委員会】

今年度は、2年続きの新型コロナウイルス感染拡大の影響で、予定されていたプログラムなどが数多く中止になりました。感染状況が少し落ち着いてきたとはいえ、楽しみにしていた青少年達の気持ちを考えると残念な思いです。子供達の安全・健康を最優先に考えた対応ですので致し方ないとはいえ内心は忸怩たる思いです。

そんな中でも、RYLAセミナーとインターアクト年次大会をリアル開催出来ましたことが大きなインパクトを与えました。RYLAセミナーは3年ぶりの開催となり、西方委員長、斉藤副委員長をはじめとする関係各位の精力的な取り組みで、感動と興奮に包まれた素晴らしいセミナーとなりました。参加者もロータリアンも貴重な成長の機会となったことでしょうか。今後も途切れることなく毎年RYLAセミナーを継続して開催することが大切です。継続することで、徐々に地区内における認知度の向上や浸透を図れると考えています。

インターアクト年次大会も3年ぶりの開催でした。大西委員長の情熱と執念で開催にこぎつけ、子供達の笑顔に目頭が熱くなりました。現在の高校3年生は、年次大会を未経験でした。今年開催出来なければ、一度も経験せずに卒業することになります。3年生に何とか年次大会を経験させてあげたいという思いが大会の開催と成功に繋がったと感じました。皆様からも概ねご好評をいただき、ご支援ご協力いただいた札幌西北RCを始めとするロータリアンの皆様並びに関係各位に心から感謝と御礼を申し上げます。

今年度を振り返ると、まだまだ課題が残りました。ニューノーマルと言われる今、青少年奉仕のあり方も変革の時なのかも知れません。当たり前感じてきたリアルなふれあいの価値を噛みしめながら、これからの時代を拓く、密にならない奉仕活動、新たな武器を活用したプログラムにチャレンジしたいと思います。また、次年度は2023年5月20～21日に全国RYLA研究会が札幌で開催されます。大成功と参加者の歓喜を目指して準備を進めて参ります。

一年間お世話になりました皆様に感謝を申し上げ、青少年奉仕の一層の充実を目指します。ありがとうございました。



委員長
西村 英晃
(恵庭RC)

【地区青少年交換委員会】

今年度の活動報告と致しまして、COVID-19感染拡大により世界中で丸2年交換が中止となっております。

ようやく2022-2023年度の派遣より再開が決まり、当地区でも2名の学生のエントリーが有り2022年夏の派遣が決まりました。

この一年を振り返りますと、オリエンテーション担当委員を中心としたオリエンテーションの開催、コーディネーターによる海外とのやり取りも円滑にできました。

残念ながら行事と致しましては集合しての宿泊を伴う研修は行えませんでした。翌年度早々には派遣学生の壮行会の企画も出来、行事担当の委員を中心に企画、準備が出来ました。

ROTEXの活動と致しましては、行事の企画ができなかったためホームページの作成やFacebookを活用した情報発信という形で活動を行いました。またジュニアカウンセラーと言う立場から派遣候補生オリエンテーションに参加をし、我々委員と共にオリエンテーションを行う場面もございました。

交換の再開と共に、委員会活動にも徐々に活気が戻ってきた気がしております。2022-2023年度からは池田委員長の元、従来のような5名以上の交換ができる事を期待しております。

また、最後になりましたが長きにわたり青少年交換委員長のお役を頂き、その間には多くの方々に助言やご支援、ご協力などを頂き支えられ委員会活動を行わせて頂いた事に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。



委員長
川本 康裕
(室蘭北RC)

【地区ローターアクト委員会】

今年度も昨年同様コロナ禍の中多くの活動が中止やオンラインに変更された。

北海道ローターアクト交流会、温泉交流会、エリア会議、全国ローターアクト研修会、海外研修等またローターアクト会長・幹事会もオンライン開催となりアクトメンバーが直接会う機会がほとんどなかった一年間でした。

また次年度からローターアクトの立ち位置が変わる1年目になります。今後ローターアクトは青少年育成プログラムから外れる事となりました。RIは地区の委員会にローターアクトメンバーを加えることを推奨しています。こう言う時だからこそアクト本来の活動の意義を考える時ではないかと思えます。

今後はオンラインによる会議や交流の頻度も多くなると思います。これはこれで新しいツールを利用していくべきだと思います。いずれにしても変えていくべきものと変えてはならないものとを良くみきわけていくべきだと思います。

私事ではありますが、今年度をもちまして委員長の任を解かして頂く事となりました。まだまだ至らぬ委員長では有りましたが委員会のメンバー始め多くの方に支えられた事感謝申し上げます。次年度からは副委員長をお願いしていました高橋耕会員を委員長としてお願いしました。更なる委員会活動を期待致します。



委員長
西方 洋昭
(岩見沢RC)

【地区RYLA委員会】

今年度も前年度に引き続きコロナ禍による影響を多く受けた年となりました。三度のまん延防止措置に緊急事態宣言、これにより委員会開催も対面では難しくWeb会議やハイブリッド会議となり、更に悪いことにPRに訪れたい各クラブの例会が休会や短縮例会と非常に活動が困難な状況が3月まで続きました。ただ今年度5月開催のRYLAセミナーへの準備だけは必ずや開催出来ると信じ着々と進めておりました。4月に入り活動自粛緩和の動きとなりセミナー開催への段取りは委員会メンバー全力、短期集中で行った結果、無事に5月28日、29日開催にこぎ着けました。そして3年ぶりの開催となった第19回RYLAセミナーは三笠市桂沢にある湯の元温泉のロビーに集まる不安そうな若者の顔を出迎えるところから始まりました。久々の開催と言うことで経験の無いスタッフも多く、本来2泊3日のところを1泊2日に短縮、ただプログラムの内容は基本に沿った形で超濃縮版として行いました。開講式、石丸GEからのご挨拶の後、参加者は各グループに分かれ、前半は大自然の中でアイスブレイクと非日常体験、昼食は岩見沢RCと石丸GEが先にタオルを巻き汗だくになって作っていただいた豪華メニューに舌鼓。夕方からは嵯峨PGによる基調講演、ワークショップ、福井PGによるリーダー講習、その後、夜中までグループディスカッション。

2日目は早朝、羽部PGのお説教から始まり、グループワークの後、グループ発表。これらの一連の流れの中で参加した若手リーダー達はグループ内でのリーダーシップやポジション、チーム内での押し引きを学んでいきます。前日、顔も名前も知らなかった若者が1泊2日の中で様々な講師の話の聞き自分なりに解釈し、自分のものとしチーム内でのコミュニケーションを深めていく。閉講式では大日向ガバナーより労いの言葉と修了証を授与されセミナーの全工程を終了。帰りの受講生達の笑顔を見て、間違いなく成功だったと確信しました。RYLAは若者の全人的な成長を促すものでありますが、強制するものではありません。成長は1週間後か、1年後か、10年後かわかりません。成長しないかもしれない。それでも我々ロータリアンは温かく応援し続けるのです。それがRYLAです。今回のRYLAには小山PGにも松浦GNにもお越しいただき、一緒に狭い相部屋で宿泊までしていただきました。本当に多くの地区役員ほかロータリアンの皆様、総勢50人以上に関わっていただき、誠にありがとうございました。この流れを続けていくことが第2510地区としての明るい未来であると思っています。次年度の斉藤委員長に良い形でバトンタッチできました。1年間ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。



委員長
大西 正啓
(札幌モーニングRC)

【地区インターアクト委員会】

昨年度より地区インターアクト委員長を拝命し、地区役員、委員会委員、顧問の先生など多くの皆様に支えられ、2年間の活動を終えることができました。

昨年8月に予定されていた当委員会最大の事業である研修旅行は、残念ながら中止となりましたが、12月に代替事業として仙台育英学園高等学校とのZoom交流会及び震災学習を開催し、当地区の多くのインターアクターに参加いただきました。仙台育英学園高等学校は、日本で最初に設立されたインターアクトクラブであり、その活動も多岐にわたるため、今回の交流を通じて、その活動を実感できる貴重な機会となりました。震災学習も東日本大震災を体験された岩沼みんなの家の代表である谷地沼さんに当時の状況や現在の状況を語っていただきました。このプログラムを通じて、インターアクターが他人事ではない自分事としてとらえることにより震災時の心構えを持ち、かつ被災者の皆さんに寄り添う心を持ち続けることが大切であると考えております。

また本年6月には、当地区の約80名のインターアクターが一堂に会する年次大会を定山溪ビューホテルにて1泊2日で大日向ガバナー、山口地区青少年奉仕委員長にもご参加いただき3年ぶりに開催することができました。プログラムも充実しており、1日目は、スクールカウンセラーの畠山喜代志氏による「構成的グループエンカウンター」について、2日目は、小児がんの子供を支援する勇者の会代表の阿部美幸氏による「小

児がんを考える」をテーマにご講演頂きました。各プログラムを通じてインターアクターの生き活きとした表情や小児がんの子供に寄り添う温かい感情を感じ取ることができ改めて開催することができ本当に良かったと胸をなでおろしています。年4回の委員会もすべて実施することができ、石丸ガバナーエレクト、松浦ガバナーノミニ、後藤地区幹事、山口地区青少年奉仕委員長にもご出席いただき、委員、顧問の先生とともに様々な意見交換をすることができました。現在新たなインターアクトクラブ創設の計画も徐々に現実味を帯びており、次年度には実現できるのではないかと期待しております。

次年度の予定となりますが、東北への研修旅行を、8月1日から3日の2泊3日で実施予定です。次年度は、私の後任として福見隼人委員長が就任されます。若きリーダーのもと活動がより活発になり、新たなインターアクトクラブの創設等さらなる発展を心から願っております。



委員長
熊澤 隆樹
(小樽RC・PG)

【地区ロータリー財団委員会】

退任にあたり、委員会の委員の方々のご支援ご協力を心から感謝申し上げます。また、ガバナー補佐の方々の多大なるサポートがあったことで、この三年間の役目を終えることが出来ました。ありがとうございました。

ご承知の通り、当委員会は、各クラブからの寄付集めと、その使用について検討しているところです。今年も昨年に続き寄付金ゼロクラブ0が達成できました。

また、地区の各クラブでの奉仕活動への支援も順調に行われたことも、合わせてお礼申し上げます。

財団への寄付は、ロータリー歴の古い方々にとっては、まだ敷居が高いかもしれませんが、この寄付の使われ方を少しでも理解していただき、ロータリーの奉仕活動がより活発になることを願ってやみません。

また、地区財団補助金委員会、財団資金推進委員会、ポリオプラス委員会、財団奨学金・平和フェロー委員会の四つの委員会が、それぞれ活発にその活動を展開していることは心強い限りです。

各委員会の方々にはこれまでのご協力にこの場を借りてお礼を申し上げます。

委員長の私としては、力不足でご迷惑をおかけしたことをお詫びいたし、退任の挨拶といたします。



委員長
大川 武志
(恵庭RC)

【地区財団補助金委員会】

日頃から地区補助金事業にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。

今年度は、45クラブ44プロジェクト5委員会に地区補助金をご利用いただきました。金額は、97,367ドルで2021年8月ロータリーレート110円換算しますと、10,710,370円です。とても多額の資金を各クラブの奉仕活動にご利用いただいた事になります。積極的にご活用いただき誠にありがとうございました。

次年度申請分からは、地区補助金配分基準や申請書、締切日等色々と変更事項があります。次年度分申請の締切は終わっておりますが、臨機応変にご対応いただきました次年度会長、幹事、委員長さんには、感謝申し上げます。お蔭様でロータリー財団への申請も無事に終了致しました。

委員長を拝命して1年が経過しようとしています。何とか1年間委員長を務めさせていただけたのも、前委員長（今年度副委員長）の澁谷様や委員の天内様と瀧澤様のお蔭です。この場を借りて感謝申し上げます。また、ガバナー事務所の寺島様には、各クラブとのやり取りなど色々ご面倒をお掛け致しました。本当にありがとうございました。

最後となりますが、次年度も委員長を務めさせていただく事となりましたので、引き続きよろしく願い致します。地区補助金の事についてご意見等ございましたら、お気軽に地区補助金専用メールアドレスにご連絡下さい。(hojokin2510@gmail.com)



委員長
松原 重俊
(砂川RC)

【地区財団奨学金・平和フェロー委員会】

素晴らしい財団奨学生との出会い！

日頃からロータリー財団奨学生に対し、ご理解とご協力を頂いておりますことにお礼と感謝を申し上げます。熊澤地区ロータリー財団委員長はじめ財団委員会の皆様、財団奨学金・平和フェロー委員会の皆様のお力添えを頂き、沢山の財団奨学生を輩出することができましたこと、委員会の皆様に心から感謝を申し上げます。

コロナ禍の中、自らの目的を達成するために海外留学を目指す若者にとって大変厳しい状況の中にも関わらず、15名（グローバル補助金10名、地区補助金5名）の応募がありました。その中でZoom面接を含む面接を行いました。海外留学に対してしっかりと意思を感じられる応募者ばかりで、選考がとても難しく責任の重さを感じております。結果は、グローバル奨学生候補者1名、地区補助金奨学生5名（合格1名、補欠合格4名）を選考いたしました。補欠合格者は、限られた地区補助金を分配し少ない金額ですが将来の優秀な財団学友としての活躍を期待する意味もあります。今年も志高く自らの目標を達成する意欲も強い素晴らしい奨学生と出会う事ができました。この出会いはロータリー財団だけでなく全てのロータリアンにとっての宝物であると思っています。

今年度もコロナ禍での留学であり、きめ細かい奨学生へのサポートを行っていきたいと思っています。今後とも皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



委員長
長沢 祐純
(札幌南RC)

【地区ポリオプラス委員会】

2021-2022年度はコロナ禍の影響でクラブの例会休会やリモート例会等の影響で広く募金活動の協力要請はできませんでしたが、外出規制が解除の時に以下の活動を行いました。

- 1、世界のポリオ撲滅活動の近況情報を地区ホームページにポリオプラスニュースを掲載し、情報発信に努めた。
- 2、8月22日、札幌南RCの平岸マルシェでの募金活動に、ポリオプラス委員会より委員が4名参加し協力した。
- 3、10月10日、函館の地区大会においてコーナーを設け、募金活動を行った。（3名参加）
- 4、世界ポリオデーに合わせ10月28日に第4・第5グループを対象にヴァイオリン奏者とピアノによる「ポリオプラスチャリティーコンサート」開催、（会長・幹事、地区財団委員ほか）60名の参加を得ることができた。
（5名参加、¥181,000他オクトンより売上の10%）
- 5、4月24日、全国ポール・ハリス・ソサエティーの認証式が札幌において開催され、それに伴い募金活動を行った。（¥178,000）

大日向ガバナーはじめ、ご参加いただいた会員皆様にお礼申し上げます。



委員長

米谷龍三

(札幌東RC)

【地区財団資金推進委員会】

今年度に於ける私の役割は、数ある財団のプログラム、すなわちメジャードナー、(M.D.)、ポール・ハリス・フェロー(PHF)、マルチプルポール・ハリス・フェロー (MPHF)、及びアーチ・クランフ・ソサエティ (AKS)の中から最重点目標をAKSに掲げる事に致しました。

具体的な活動とは、我が東クラブを除き、(既に実行済み) 2510地区の全会員を対象に、narrationを交えた約30分に亘るスライドを2021年9月中旬に合同事務所を通じて配信致しました。

第1部「アーチ・クランフ・ソサエティ・AKSとは何か」第2部「AKSの入会式に参列して」をタイトルと致しました。

RI本部から頂いたファイルと自ら撮影した写真など約50枚が収められております。この中にはEvanston (Chicago)にある通称One World Centerの内部にある会長室、理事会室等やポール・ハリス縁の地であるシカゴ郊外の別邸等が含まれております。

これらは、出来れば当地区の全ロータリアンがご覧頂けるように致しましたが、コロナ禍における例会中止の影響が大きく、十分に行き届ける事が不可能になりました。

しかし乍ら2,3のクラブさんからは激励のメッセージを頂き、大変感謝いたしております。残念ながら今年度の実績はゼロでしたが、与えられた残り任務2年の中で実績を上げるよう努力しようと考えております。



新会員のご紹介

(敬称略)



苫小牧RC
岩田 麻理子
令和4年5月27日入会
生命保険



岩見沢RC
寺本 純理
令和4年5月26日入会
損害保険業



千歳セントラルRC
小松 大翼
令和4年5月24日入会
総合建設・不動産業



札幌西北RC
石垣 尚之
令和4年6月9日付日入会
弁護士



札幌西北RC
光岡 富士夫
令和4年6月9日付日入会
保険代理-生命

訃報

謹んでお悔やみ申し上げますとともに心からご冥福をお祈り致します



滝川RC
笹見 孝夫 会員 2022年5月21日逝去(享年63歳)

【ロータリ歴】 2004年9月 入会
2011-12年度 ロータリー友誌委員長

ロータリー財団へのご協力に感謝申し上げます

5月

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

千歳 RC	五十嵐 宏 会員	(2回)	5月31日
札幌大通公園 RC	菅原 秀二 会員	(1回)	5月31日
札幌西北 RC	馬杉 榮一 会員	(3回)	5月27日
札幌西北 RC	小林 秀樹 会員	(6回)	5月2日
苫小牧北 RC	山田 新一 会員	(1回)	5月19日

ポール・ハリス・フェロー

苫小牧 RC	宮崎 洋二 会員	5月31日
--------	----------	-------

6月

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

札幌 RC	古野 重幸 会員	(2回)	6月2日
札幌北 RC	姫野 芳安 会員	(2回)	6月21日
札幌北 RC	黒川 篤 会員	(6回)	6月30日
札幌モーニング RC	武田 司 会員	(1回)	6月24日
札幌モーニング RC	柴藤 正行 会員	(3回)	6月24日
札幌モーニング RC	佐藤 元治 会員	(5回)	6月24日
岩内 RC	東山 洋徹 会員	(2回)	6月24日
岩内 RC	野澤 幸平 会員	(2回)	6月24日
小樽 RC	杉江俊太郎 会員	(2回)	6月27日
小樽南 RC	濱本 進 会員	(3回)	6月22日
小樽南 RC	小笠原俊介 会員	(3回)	6月22日

長万部 RC	井上 正範 会員	(1回)	6月15日
長万部 RC	角 健 会員	(1回)	6月15日
白老 RC	加藤 泰久 会員	(1回)	6月24日

ポール・ハリス・フェロー

当別 RC	辻野 浩 会員	6月28日
札幌 RC	松下 直樹 会員	6月2日
札幌西 RC	河口 義憲 会員	6月23日
札幌西北 RC	菊田 等 会員	6月2日
小樽南 RC	京谷 篤 会員	6月22日
長万部 RC	木戸 正春 会員	6月15日
長万部 RC	村松 和弘 会員	6月15日

米山記念奨学会へのご協力に感謝申し上げます

5月

米山功労者

札幌西北 RC	久保 隆 会員	(1回)	5月27日
札幌西北 RC	池上喜重子 会員	(2回)	5月27日
札幌西北 RC	馬杉 榮一 会員	(3回)	5月27日

6月

米山功労者

滝川 RC	宮崎 英彰 会員	(2回)	6月24日
滝川 RC	西田 浩二 会員	(2回)	6月24日
滝川 RC	渡邊 恭久 会員	(5回)	6月24日
岩見沢 RC	小川 有積 会員	(1回)	6月30日
札幌 RC	小山 司 会員	(8回)	6月22日
札幌はまなす RC	徳物 葉子 会員	(2回)	6月27日
札幌北 RC	黒川 篤 会員	(4回)	6月21日
札幌モーニング RC	大西 正啓 会員	(1回)	6月24日
札幌モーニング RC	若松 孝 会員	(2回)	6月24日
札幌モーニング RC	賀来 亨 会員	(3回)	6月24日
札幌モーニング RC	佐藤 元治 会員	(5回)	6月24日
札幌東 RC	小田切房之 会員	(8回)	6月17日
小樽 RC	松本 京子 会員	(1回)	6月2日

小樽 RC	松倉 弘 会員	(3回)	6月2日
登別 RC	遠藤 秀雄 会員	(13回)	6月10日
七飯 RC	上野 一義 会員	(27回)	6月7日
函館五稜郭 RC	渡辺 宗起 会員	(1回)	6月28日
函館五稜郭 RC	星井 英人 会員	(2回)	6月28日
函館五稜郭 RC	光銭 裕二 会員	(6回)	6月28日
白老 RC	山本 浩平 会員	(1回)	6月24日
白老 RC	鈴木 武幸 会員	(1回)	6月24日
白老 RC	加藤 泰久 会員	(2回)	6月24日

米山功労クラブ

滝川 RC	37回	6月24日
小樽 RC	15回	6月2日

第1地域 RRFC便り 6月号

3カ年の任務を終えて

2019年の7月1日から2022年の6月30日までの3ヶ年第1地域ロータリー財団地域コーディネーターの任命を受けて今年30日で任期を満了することになりました。

この3ヶ年第1地域の地区ガバナー・地区財団委員長・地区ガバナーエレクトには毎月ロータリー財団の情報を適宜お知らせするために「第1地域 RRFC便り」を送信して参りました。この目的は、

- 1) ロータリーの最優先事項であるポリオ根絶を達成するため、ポリオプラスへの支援をロータリアンに促すこと。
- 2) ロータリー財団への寄付（年次基金）に関してクラブと地区に支援を提供すること。
- 3) ロータリー補助金についてクラブや地区に情報を提供すること。
- 4) ロータリー財団委員長と委員が成功するために必要な資質とスキルを理解するための情報を提供すること。
- 5) ロータリー財団のポリオプラス基金、恒久基金、年次基金への支援を促すこと。
- 6) DDF配分と地区補助金の計画を立つことを支援すること。
- 7) ファンドレイジングの支援をすること。

この7つを基調にして如何に地区とクラブを支援できるかを考えた時に、定期的に各地区のガバナー・地区財団委員長・地区ガバナーエレクトに情報を発信して財団に関する取り組みをその都度認識して貰うことを願って第1地域RRFC便りの送信をスタートいたしました。この5年間（ARRFCを含めた）「年次基金ゼロクラブゼロ」を目指してのお願いを少し強引にして参りましたことも今では懐かしい思い出となりました。今後ともご理解とご支援をお願い申し上げます。初年度、同時に第1地域のE/MGAに就任された中谷研一PDGと話し合い、今の日本の現状では大口寄付（1万ドル以上を一括に）や冠名基金（2万5千ドルから）の設立をお願

いすることに難しさを感じていました。そこで我々はPHS（ポール・ハリス・ソサエティ）を推進することに注目し、そのための認証式と入会式をブラックタイパーティーの実施を初年後に計画していました。皆さまご承知のように2020年春から新型コロナウイルス感染症に拡大のために初年度は泣く泣く中止を余儀なくされました。次の2020-21年度は少しラフに参加して貰おうとバーベキュー前夜祭を企画しましたが、又してもコロナ禍のため、中止となりました。しかし、お陰様で今年度4月23日24日の両日札幌市においてPHS認証式（札幌プレミアムホテルTSUBAKI）とPHS前夜祭（札幌ビール園）に、全国各地から多くのご参加を賜り開催できましたことは、3か年のRRFCの任務を終えるにあたり初期の目的の一つを達成出来た事と安堵しています。この3カ年を支えて戴きましたチーム財団（飯村・細川・橋岡・佐々木ARRFC・中谷E/MGA・高柳EPNC・第2地域服部良男RRFC・第3地域永田壮一RRFC）の皆様には深甚なる感謝と御礼を申し上げます。併せて、日本チーム（菅原RC、井原RPIC、水野RC、服部（陽）RPIC、滝澤RC、山下RPIC）の皆様にもロータリー運動を推進する同じ目的のためにご一緒できましたことは大変有意義な経験となりました。深く御礼申し上げます。コロナ禍での対応に様々なアドバイスを戴いた、国際ロータリー日本事務局財団室の清水優季 室長を始め、財団室の皆様には心から感謝を申し上げます。次年度の第1地域RRFCには3ヶ年一緒に財団チームの一員としてARRFCとしてご尽力された第2550地区飯村慎一PDGが就任されます。飯村様のご活躍とチーム財団の変わらぬご尽力にご期待申し上げます。各地区の地区ガバナー・地区財団委員長・地区ガバナーエレクトの更なるご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。

（羽部記）

ロータリー奉仕デー 広島から世界に目を向けて

(広島西南ロータリークラブ会員、国際ロータリー第2710地区公共イメージ委員長)

<寄稿者：田中朋博>

国際ロータリー第2710地区では、広島県と山口県の72のロータリークラブがそれぞれの地域ならではの奉仕活動を行っています。コロナ禍で迎えた3年目の春、2022年4月28日に、初めての地区内クラブ合同奉仕事業となる『国際ロータリー第2710地区ロータリー奉仕デーinマツダスタジアム』を実施。広島東洋カープの主催試合にあわせて、マツダスタジアム、広島駅とマツダスタジアムをつなぐカープロードなど計7カ所で募金を呼びかけ、スタジアムの入場ゲートなどで資料配布やロータリークラブの公共イメージ調査を行いました。今回の事業は、国際ロータリーが長年にわたって続けているポリオ(小児まひ)根絶のための活動(エンドポリオキャンペーン)と、ロシア軍の侵攻を受けるウクライナにおいて被害を受けた方々への支援を目的として行われました。



「多様性を受け入れ、相互理解を深めよう」という掛け声のもと、ローターアクト(18~30歳の青年男女)やインターアクト(12~18歳の中高生)、米山奨学生(勉学・研究のために日本に在留している外国人留学生)をはじめ、日本青年会議所、広島青年会議所などの他団体とも連携。広島にゆかりのあるウクライナご出身の方々も加わり、総勢323人が活動に参加し、奉仕活動終了後には野球観戦を通して親睦を深めました。

多様性を受け入れ相互理解が深まる世界に向けて24,394人の野球ファンがマツダスタジアムに

援に駆け付けた当日。奉仕活動に参加した323人は、広島東洋カープとコラボした赤いエンドポリオTシャツを着用。ロータリークラブのさまざまな取り組みを1冊にまとめたパンフレットと、表面に広島東洋カープ、裏面にエンドポリオのロゴが入ったオリジナルうちわとパンフレットを、マツダスタジアムの入場者やファンの方々に配布しました。



<インターアクトも参加して多様性に拍車>

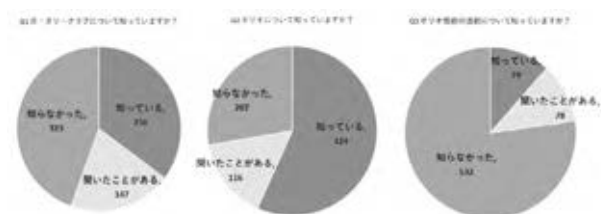
スタジアムバックスクリーンの大型ビジョンでは、当日の奉仕活動についての告知やエンドポリオのCM動画を放映。ロータリークラブの活動をより多くの



人に知っていただけるよう、積極的に情報発信を行いました。活動にあたっては、メディア向けにプレスリリースを発信。地元の新聞やラジオ、ニュース番組など10以上のメディアで取り上げていただきました。国際ロータリー第2710地区2021-22年度ガバナー(代表者)の杉川聡氏は「ロシアによるウクライナ侵攻に強く心を痛めています。ポリオ根絶だけでなく、みんなのために、そして未来のためになにができるのか、平和を願って取り組みたい。多様性を受け入れ、相互理解が深まる世界に向けて、今回のような活動が少しでもきっかけになればという思いです」とメッセージを発信されました。さらに多くの共感と協力を得るために世界で30億人以上の子どもた

ちをポリオウイルスから救ってきたロータリークラブの活動。1988年には125カ国で毎年35万件の症例報告がありましたが、2022年現在、野生型ポリオによる症例はアフガニスタンの1件のみとなっています。

そうした世界的な活動実績を残してきた一方で、今回行った公共イメージ調査では、一般の人々への認知がまだまだ浸透していないという現実が浮き彫りになりました。



イメージ調査では、「Q1. ロータリークラブについて知っていますか？」「Q2. ポリオについて知っていますか？」「Q3. ポリオ根絶の活動について知っていますか？」という3つの質問に対し746名の回答が得られ、そのうち「知っている」または「聞いたことがある」と答えたのは、Q1が403名、Q2が540名、Q3が157名という結果に。私たちの活動の意義を伝え、さらに多くの人々の共感と協力を得るためにも、地域を巻き込んだ活動の機会をさらに増やしていきたいと考えています。調査にご協力いただいた皆様には、ロータリーの活動周知のため、お礼としてウエットティッシュを配布しました。

この活動を、新しい未来へとつなげる一歩に

今回の奉仕活動には、広島出身でカープ女子としても知られるうえむらちかさんや、同じく広島出身でスポーツリポーターやモデルとして活躍されている佐久間むつみさんも参加。

「毎日、目を覆いたくなるような悲惨なニュース

が飛び込んでくるなかで、自分もなにかお手伝いできないかという思いで参加しました。カープロードを歩く皆さんから温かい言葉をかけていただき本当に嬉しかったです。こうして普通に野球を観ることができる幸せに感謝しつつ、いま現在も苦しんでいる人たちが世界にはたくさんいるという現実をあらためて胸に刻みながら活動していきたいです」とうえむらさん。「今日こうしてたくさんの人に声をかけられることをありがたく思っています。1人100円ずつでも募金をしていただければ、祖国のためにできることがあります。この戦争をどう終わらせるか、被災者たちをどうすれば助けられるか、それだけをずっと考えています。ロシア人とウクライナ人は兄弟のような存在。平和の中で支え合って生きていくべきだと信じています」と話してくれました。

■ウクライナご出身のエレナさんも募金活動に参加



ウクライナ人の父、ロシア人の母をもち、ウクライナ東部のドニプロという都市で育ったエレナ・ボンダレンコ（平石）さんは、ご主人が国際ロータリー第

2710地区の会員。息子さんと共にドイツから広島へ一時帰国しているときに、ウクライナ侵攻が行われました。今回の募金で集まった519,586円は、国際ロータリーのロータリー財団やウクライナのドニプロシティロータリークラブを通して、ポリオが根絶できてない国やウクライナの支援のために届けられます。

広島から世界に目を向けて、自分たちだからこそできることを新しい未来へとつなげられるように、国際ロータリー第2710地区はこれからも活動を続けていきます。

広島から世界に目を向けて～ここで自分たちにできることを

■ロータリーによるウクライナ危機への対応

<ウクライナ危機への対応>

<https://www.youtube.com/watch?v=ZaZE4oSOSAs>

ロータリーは、ウクライナでの戦争による人命の喪失および人道的危機の深刻化を深く懸念しています。私たちは地世界に平和を域に根づいたネットワーク世界に平和をくと数十年にわたる経験を生かし、現地で迅速に行動を起こしています。

ご寄付が活用されています

2022年3月3日から4月30日までにロータリー災害救援基金に寄せられたすべてのご寄付は、ウクライナ難民またはこの戦争の被災者支援が行われている地域への人道的救援活動に優先して活用されています。世界中の方々からの温かいご支援のおかげで、ロータリーは1,500万ドル以上の寄付を募り、水や食糧、シェルター、医療物資、衣服といった必需品のために既にこの資金を活用しています。現在までに、この戦争による被災者支援のために、90件の災害救援補助金（総額240万ドル）が授与されています。ロータリー財団は引き続き、この寄付をウクライナとその周辺地域での人道的救援活動に活用していきます。地区は2022年6月30日まで、この目的のために災害救援補助金を申請できます。5月1日以降の災害救援基金へのご寄付は、復興援助を必要とする全世界の被災地で活用可能となります。

災害救援補助金の申請

ロータリー地区が災害救援基金から補助金を申請する方法をご覧ください。

迅速な手続きが行われるこの補助金は、水、食料、シェルター、医療品、衣服といった救援物資を含め、この危機による難民や被災者の支援に利用できます。地区は、地元自治体や地元団体と密に協力し、補助金が地元の具体的ニーズに充てられるようにすべきです。

申請はこちら

<https://my.rotary.org/ja/take-action/apply-grants/rotary-disaster-response-grants>

クラブ・地区による救援活動の連絡先と支援方法

ウクライナと近隣地域では、多くのクラブと地区が人道支援活動を行っています。ロータリークラブや地区の協力を得る方法、難民の宿泊に関する連絡担当者、その他の各地での取り組みについてご覧ください。各地のプロジェクトを直接ご支援いただけます。

救援活動のリストとその連絡先（PDF）をダウンロード

<https://my-cms.rotary.org/ja/document/ukraine-locally-led-efforts?bypass=true>

第2232地区(ウクライナ)は、ウクライナでの戦争の被災者を支援するための委員会を結成しました。同委員会は、負傷した市民のために必要とされている緊急医療物資のリストを作成しました。リスト(PDF)のダウンロードはこちら。

<https://my-cms.rotary.org/ja/document/district-2232-medical-needs-list?bypass=true>

ロータリーによる救援活動のストーリー

ウクライナ難民に情報、移動手段、医療品、シェルターを提供するため、欧州や世界各地のロータリークラブとローターアクトクラブが、周辺地域の会員とともに支援活動に乗り出しています。

クラブの活動について読む

<https://www.rotary.org/ja/rotarys-network-enables-rapid-humanitarian-relief-for-ukrainian-refugees>

■ローターアクターによる補助金参加が！

【ローターアクターによる補助金参加の新たな機会】

ローターアクターは、長年にわたり、地元をはじめとする幅広い地域社会で有意義な奉仕を行ってきました。7月から、ローターアクトクラブは、ロータリー財団の補助金を申請できるようになり、さらに大きな影響を世界にもたらすことができようになります。ローターアクトと補助金に関するよくある質問をダウンロードし、詳細をご覧ください。

【授与と受諾の条件更新】

「授与と受諾の条件」が更新され、地区補助金用とグローバル補助金用のそれぞれ別個の資料となりました。これにより混乱を緩和し、各補助金に関する特定の情報を見つけることができるようになります。

【2022-23年度地区の参加資格認定】

2022-23年度のための、地区の参加資格認定はお済みですか?地区がロータリー財団の補助金を申請するには、まず参加資格の認定を受ける必要があります。認定手続きは毎年行う必要があります。6月30日までに、必ずお手続きをお願いいたします。

参考:MyROTARY「参加資格の認定」、財団室NEWS 2月号p. 8

■手続きが必要な方

現ガバナーノミニート、2022-23年度に新たに地区ロータリー財団委員長(DRFC)になる方々です。(任期継続または再任のため4年目となるDRFCも必須です。DRFC 2年目、3年目または5年目、6年目の方は不要です)

■手続き方法

MyROTARYの「補助金センター」からオンライン手続きです。補助金センターを開いてから、画面右上「さらに表示」にカーソルを当てて、「地区の参加資格認定」からお進みください。必ず6月30日までにお手続きをお願いいたします!

■地域RRFCやARRFCに相談して下さい!

地区補助金やグローバル補助金に関して、分からないことが出来たら最寄りの(担当のARRFCやRRFC)に気軽にお尋ね下さい。親身に相談に応じて下さいます。次年度のコーディネーターのメールアドレスを確認されると良いと思います。(羽部記)

■年次基金寄付ゼロクラブ!

新型コロナウイルス感染拡大により、クラブの取り組みや会員の皆様の生活へ大きな影響がある中でも、ロータリーを支えるための寄付をお寄せいただき誠にありがとうございます。クラブ会員のお一人でも年次基金へご寄付をいただ

ければ年次基金寄付ゼロクラブではなくなります。今年度も残りわずかとなりますが、年次基金寄付ゼロクラブゼロの目標達成に向け、ご協力をお願いいたします。

地区別年次基金寄付ゼロクラブ数

2022年5月23日現在

地区	クラブ数	地区	クラブ数	地区	クラブ数
2500	0	2620	2	2740	5
2510	1	2630	1	2750	4
2520	5	2640	9	2760	0
2530	3	2650	0	2770	0
2540	2	2660	0	2780	5
2550	2	2670	0	2790	1
2560	1	2680	3	2800	2
2570	0	2690	0	2820	0
2580	0	2700	4	2830	2
2590	0	2710	2	2840	5
2600	0	2720	3	合計	69
2610	5	2730	2		

地区内の年次基金寄付ゼロクラブの確認は、月次寄付レポートをご参照ください。※通常、ご寄付から約2週間後にレポートへ反映されます。《MyRotaryにログイン→「ロータリー財団」にカーソルを当てて、表示されるメニュー内「各種レポート」→「地区のレポート」→「寄付&認証」の「レポートを見る」→月次寄付レポート》

■句仏上人の句と牡丹の花



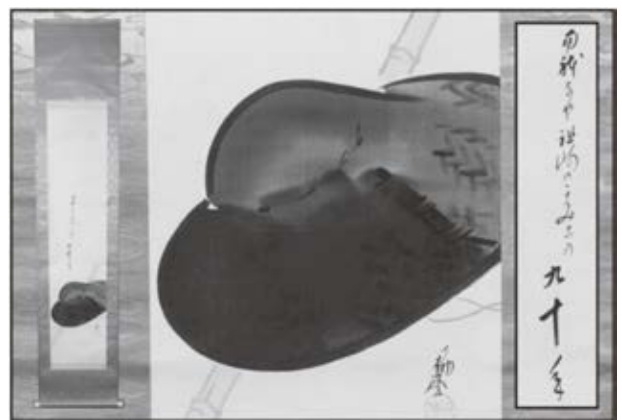
大谷句仏(光演)上人は、東本願寺第23世の法主として1875年生誕。生涯2万句を詠まれた。そして波乱万丈の生涯を1943(昭和18)年2月6日に68歳で示寂した。

幸野株嶺や竹内栖鳳に日本画を学び、正岡子規の影響を受けて「ホトトギス」誌に高浜虚子や河東碧梧桐に選評してもらったという。しかし、独自の句風に目覚め生涯に2万句を詠んで才能を開花させている。自ら「句仏」と句を以て仏

徳を讃嘆する意味を込めて親しまれている。句誌「懸葵（かけあおい）」の中心的なメンバーである。句集に「夢の跡」「我は我」などがある。1906（明治39年）4月に、札幌初の仏教系女学校である北海女学校（現大谷高等学校）の開校に漕ぎつけた。かねてより負債問題で紛糾していた先代が脳病となったため引退し、財政立て直しのために光演が35歳で跡を継いだ。が、鉱山事業などで失敗して自己破産を申請し、1925年に引退して長男光暢台下に管長を譲った。その後は苦勞をされて良く北海道にお越しになった。私の寺に昔御殿と言って前庭に2階建ての洋館があり、一階に寝室と居間があった。2階は和室だったように記憶しているが、足がお悪かったので1階の洋間で過ごされていたと聞いている。その居間で良く絵を描かれていたと聞いた。句も詠んだのだろうと想像している。

今回紹介する句は「浄土にて復た逢ふまでの夜長かな」である。浄土真宗は宗祖親鸞聖人以来、浄土往生が人生最大の事業である。浄土に生まれることが根本なので、今生は無常であるけれど浄土においては、必ず二度の対面を果たして再会することが出来る。暫くの辛抱だと夜長ふ

と浄土での友との再会を期した句であると戴いたことだ。よく目にする句が「勿体なく祖師は紙衣の九十年」これである。今から八百年前、親鸞聖人の時代には、立派な衣などなく紙衣と言われるほど貧しい衣を纏い暮らされていた様子が伝わってくる。私が生活する現代社会は正に欺瞞に満ちた毎日でないか。お恥ずかしいとしか言葉が見つからない。そのことをお知らせ下された句である。3年間お恥ずかしい絵や下手な文字を、そして根拠のない解説など大変失礼なことと反省している。ロータリーの相手を思いやる心で世界平和を念じつつ筆を下ろす事にする。（羽部記）



会員数・例会回数報告

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数			
			2021.7.1	2022.5.31	増減	内女性
1	深 川	3	32	33	1	2
	羽 幌	3	36	34	-2	1
	留 萌	3	25	25	0	4
	小 計		93	92	-1	7
2	赤 平	3	20	20	0	2
	芦 別	0	28	27	-1	2
	砂 川	3	39	38	-1	1
	滝 川	2	84	86	2	5
	小 計		171	171	0	10
3	美 唄	3	22	20	-2	0
	江 別	3	36	37	1	1
	江 別 西	4	35	34	-1	3
	岩 見 沢	3	91	91	0	1
	岩 見 沢 東	4	17	14	-3	2
	栗 沢	2	18	17	-1	1
	栗 山	3	25	24	-1	4
	当 別	3	26	24	-2	0
	小 計		270	261	-9	12
4	札 幌	3	121	122	1	2
	札幌はまなす	4	17	17	0	2
	札 幌 北	4	38	38	0	4
	札幌モーニング	3	36	37	1	0
	札 幌 西	4	50	48	-2	9
	札 幌 西 北	2	30	34	4	3
	札 幌 手 稲	3	34	32	-2	3
	小 計		326	328	2	23
5	札 幌 東	3	113	108	-5	0
	札 幌 清 田	4	11	11	0	3
	札 幌 幌 南	3	59	59	0	3
	札幌真駒内	3	20	19	-1	5
	札 幌 南	4	76	78	2	3
	札幌大通公園	2	12	12	0	3
	札幌ライラック	2	14	13	-1	4
	新 札 幌	3	24	25	1	5
小 計		329	325	-4	26	
6	岩 内	2	26	27	1	1
	倶 知 安	2	33	33	0	4
	小 樽	4	72	73	1	3
	小 樽 南	3	60	58	-2	3
	小 樽 銭 函	2	15	15	0	1
	蘭 越	4	8	8	0	0
	余 市	3	37	36	-1	3
	小 計		251	250	-1	15

5月会員増減数

クラブ数	69クラブ
期首会員数	2,418人
当月末会員数（女性）	2,408人(172人)
増加会員数	-10人

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数			
			2021.7.1	2022.5.31	増減	内女性
7	千 歳	3	74	73	-1	10
	千歳セントラル	3	42	44	2	10
	恵 庭	3	45	46	1	3
	北 広 島	4	15	16	1	0
	長 沼	3	16	15	-1	3
	由 仁	1	8	8	0	1
	小 計		200	202	2	27
8	え り も	2	17	17	0	1
	三 石	4	11	11	0	0
	様 似	2	14	14	0	1
	静 内	3	64	64	0	4
	浦 河	4	20	20	0	2
	小 計		126	126	0	8
	9	伊 達	3	61	60	-1
室 蘭		3	30	30	0	2
室 蘭 東		3	31	31	0	2
室 蘭 北		4	52	53	1	2
登 別		3	26	26	0	1
洞 爺 湖		2	11	11	0	1
小 計			211	211	0	10
10		函 館	4	57	63	6
	函 館 亀 田	4	33	33	0	4
	森	2	33	33	0	0
	七 飯	3	15	15	0	0
	長 万 部	2	10	10	0	0
	函館セントラル	4	23	23	0	2
小 計		171	177	6	8	
11	江 差	2	9	10	1	1
	函館五稜郭	3	47	47	0	0
	函 館 東	4	36	37	1	8
	函 館 北	3	17	13	-4	1
	北 斗	3	12	11	-1	0
小 計		121	118	-3	10	
12	白 老	4	30	28	-2	3
	苫 小 牧	3	59	59	0	3
	苫小牧東	4	32	32	0	7
	苫小牧北	3	28	28	0	3
	小 計		149	147	-2	16
合 計		2,418	2,408	-10	172	

※岩見沢RCには岩見沢ネクストロータリー衛星クラブの会員数14名（内女性会員0名）を含む

会員数・例会回数報告

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				年間 出席率
			2021.7.1	2022.6.30	増減	内女性	
1	深 川	3	32	33	1	2	83.17
	羽 幌	3	36	34	-2	1	71.57
	留 萌	5	25	23	-2	4	79.24
	小 計		93	90	-3	7	77.99
2	赤 平	3	20	20	0	2	66.00
	芦 別	3	28	24	-4	1	68.42
	砂 川	3	39	36	-3	1	87.38
	滝 川	4	84	85	1	5	62.00
	小 計		171	165	-6	9	70.95
3	美 唄	4	22	20	-2	0	82.30
	江 別	4	36	36	0	1	100.00
	江 別 西	4	35	34	-1	3	90.00
	岩 見 沢	5	91	90	-1	1	96.84
	岩見沢東	4	17	14	-3	2	79.93
	栗 沢	3	18	15	-3	1	91.31
	栗 山	3	25	24	-1	4	87.34
	当 別	4	26	24	-2	0	90.37
	小 計		270	257	-13	12	89.76
4	札 幌	5	121	122	1	2	87.58
	札幌はまなす	4	17	17	0	2	88.24
	札 幌 北	3	38	37	-1	5	100.00
	札幌モーニング	4	36	37	1	0	100.00
	札 幌 西	4	50	46	-4	9	54.90
	札幌西北	3	30	35	5	3	100.00
	札幌手稲	4	34	31	-3	3	100.00
	小 計		326	325	-1	24	90.10
5	札 幌 東	3	113	110	-3	0	100.00
	札幌清田	3	11	11	0	3	100.00
	札幌幌南	4	59	58	-1	3	100.00
	札幌真駒内	3	20	19	-1	5	100.00
	札 幌 南	4	76	78	2	3	100.00
	札幌大通公園	2	12	12	0	3	75.00
	札幌ライラック	2	14	11	-3	2	60.30
	新 札 幌	3	24	24	0	5	100.00
	小 計		329	323	-6	24	91.91
6	岩 内	4	26	26	0	1	81.57
	倶 知 安	2	33	33	0	4	70.00
	小 樽	4	72	70	-2	3	83.01
	小 樽 南	4	60	59	-1	3	100.00
	小樽銭函	2	15	15	0	1	72.00
	蘭 越	4	8	7	-1	0	94.13
	余 市	4	37	36	-1	3	78.50
	小 計		251	246	-5	15	82.74

6月会員増減数

クラブ数	69クラブ
期首会員数	2,418人
当月末会員数（女性）	2,349人(166人)
増加会員数	-69人

グループ	クラブ名	例会数	会 員 数				年間 出席率
			2021.7.1	2022.6.30	増減	内女性	
7	千 歳	3	74	68	-6	9	88.13
	千歳セントラル	3	42	43	1	10	59.55
	恵 庭	4	45	46	1	3	74.86
	北 広 島	4	15	15	0	0	63.31
	長 沼	3	16	15	-1	3	80.11
	由 仁	2	8	8	0	1	72.20
小 計		200	195	-5	26	73.03	
8	え り も	2	17	17	0	1	98.00
	三 石	4	11	11	0	0	66.70
	様 似	3	14	14	0	1	73.98
	静 内	5	64	59	-5	4	82.48
	浦 河	4	20	19	-1	2	72.84
	小 計		126	120	-6	8	78.80
	9	伊 達	4	61	59	-2	2
室 蘭		4	30	30	0	2	70.40
室 蘭 東		4	31	31	0	2	81.00
室 蘭 北		4	52	48	-4	1	70.75
登 別		5	26	26	0	1	65.38
洞 爺 湖		2	11	11	0	1	86.80
小 計			211	205	-6	9	76.86
10		函 館	4	57	58	1	2
	函館亀田	4	33	30	-3	3	65.87
	森	2	33	33	0	0	60.00
	七 飯	3	15	15	0	0	71.10
	長 万 部	2	10	10	0	0	57.50
	函館セントラル	4	23	23	0	2	64.00
	小 計		171	169	-2	7	66.33
11	江 差	2	9	10	1	1	69.00
	函館五稜郭	4	47	42	-5	0	75.18
	函 館 東	3	36	36	0	7	74.45
	函 館 北	4	17	12	-5	1	74.20
	北 斗	5	12	11	-1	0	63.60
	小 計		121	111	-10	9	71.29
12	白 老	4	30	27	-3	3	79.80
	苫 小 牧	4	59	56	-3	3	86.80
	苫小牧東	4	32	32	0	7	79.58
	苫小牧北	4	28	28	0	3	85.76
	小 計		149	143	-6	16	82.99
合 計		2,418	2,349	-69	166	80.67	

※岩見沢RCには岩見沢ネクストロータリー衛星クラブの会員数14名（内女性会員0名）を含む

表紙の解説

この銅像は、高田屋嘉兵衛の功績を称えるとともに、箱館開港100年を記念して昭和33年（1958年）に建てられた。制作者は函館出身の彫刻家、梁川剛一である。

嘉兵衛は明和6年（1769年）に淡路島生まれ、28歳のとき箱館に渡った。文政元年（1818年）に故郷に帰るまで、箱館を基地として造船・海運業・漁場経営などを手がけ、国後島・択捉島の航路や漁場を開発し、今日の函館発展の基礎を築き、大きな業績を残した。

さらに、日露国家間に起こった「ゴロヴニン事件」を民間の立場ながら無事解決に導いたことでも有名である。この像は、文化10年（1813年）、ロシア軍艦ディアナ号が、日本に捕らわれていたゴロヴニン船長を引き取るため、箱館に入港した際に立ち会った時の嘉兵衛の姿である。右手に持つのが松前奉行からの諭書、左手に持つのは艦内で正装に着替えた際に脱いだ衣装であり、仙台平の袴に白足袋、麻裏草履を用い、帯刀している。



